経済建設委員会会議録

令和7年3月5日(水)

(開 会) 10:30

(閉 会) 15:38

【 案 件 】

1. 議案第 2 号 令和6年度 飯塚市下水道事業会計補正予算(第3号)
2. 議案第 7 号 令和7年度 飯塚市小型自動車競走事業特別会計予算
3. 議案第 8 号 令和7年度 飯塚市農業集落排水事業特別会計予算
4. 議案第 9 号 令和7年度 飯塚市地方卸売市場事業特別会計予算
5. 議案第10号 令和7年度 飯塚市駐車場事業特別会計予算
6. 議案第11号 令和7年度 飯塚市工業用地造成事業特別会計予算
7. 議案第12号 令和7年度 飯塚市汚水処理事業特別会計予算
8. 議案第13号 令和7年度 飯塚市水道事業会計予算
9. 議案第14号 令和7年度 飯塚市工業用水道事業会計予算
10. 議案第15号 令和7年度 飯塚市下水道事業会計予算
11. 議案第16号 令和7年度 飯塚市立病院事業会計予算
12. 議案第25号 飯塚市宿泊税交付金基金条例
13. 議案第33号 飯塚市自転車駐車場条例の一部を改正する条例
14. 議案第34号 飯塚市中小企業融資制度に係る中小企業者等の事業の再生のための措置に関する条例の一部を改正する条例
15. 議案第35号 飯塚市水道事業給水条例の一部を改正する条例
16. 議案第37号 契約の締結(相田公営住宅1棟目建設工事)
17. 議案第40号 土地の処分(栗尾工業団地北側)
18. 議案第41号 土地の処分(平恒地区工場適地)
19. 議案第43号 市道路線の認定
20. 議案第45号 専決処分の承認(令和6年度 飯塚市小型自動車競走事業特別会計補正予算(第4号))

【 報告事項 】

1. メインスタンドリニューアルオープンについて (公営競技事業所)
2. 市道上における車両損傷事故について (土木管理課)
3. 工事請負変更契約について (上水道課)

○委員長

ただいまから経済建設委員会を開会いたします。

「議案第2号 令和6年度 飯塚市下水道事業会計補正予算(第3号)」を議題といたします。執行部の補足説明を求めます。

○企業管理課長

「議案第2号 令和6年度 飯塚市下水道事業会計補正予算(第3号)」について、説明をさせていただきます。

補正予算資料、予算概要書の3ページをお願いいたします。今回の補正につきましては、国の補正予算に伴うものでございます。資金的収入につきましては、企業債及び国庫補助金で6735万円を増額し、総額を4億8018万8千円とし、資金的支出につきましては、施設改良費で7661万円を増額し、総額を12億607万8千円とするものでございます。対象事業につきましては、柳橋二瀬汚水幹線管渠改築工事となります。なお、本事業につきまして

は、翌年度へ繰り越す予定といたしております。

以上、簡単でございますが、補足説明を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

(質疑なし)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第2号 令和6年度 飯塚市下水道事業会計補正予算(第3号)」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第7号 令和7年度 飯塚市小型自動車競走事業特別会計予算」を議題といたします。執行部の補足説明を求めます。

○公営競技事業所副所長

「議案第7号 令和7年度 飯塚市小型自動車競走事業特別会計予算」の補足説明をいたします。

予算資料の3ページのほうをお願いいたします。令和7年度予算案といたしまして、歳入歳出予算の総額を、歳入歳出それぞれに242億3089万3千円とするものでございます。

予算資料の65ページのほうをよろしくお願いたします。令和7年度につきましては、本場での通常開催は78日、ミッドナイトレースを89日の合計167日間の開催予定で予算を編成しております。場外発売の日数につきましては延べ230日を予定しております。

それでは、歳入歳出予算の主なものを説明いたします。

まず、歳入予算につきまして、勝車投票券発売収入232億7698万9千円は、飯塚オートレース場で開催するミッドナイトレースを含めました全てのレースにおける本場、場外発売及び民間ポータルの上見込みを計上しております。

令和6年度当初予算と比較しまして18億9605万9千円の増を見込んでおります。

この主な理由といたしましては、ミッドナイトレースの売上げが好調なことに加えまして、開催日数が4日増えたことによるものでございます。これによりまして、令和7年度当初予算における包括的民間委託に伴う収益保証につきましては、約8億2591万3千円を見込んでおります。小型自動車競走施設整備事業債、4億4460万円につきましては、メインスタンド整備事業の財源として起債するものでございます。

続きまして、歳出予算につきまして、本場開催経費40億5266万6千円は、前年度と比較しまして3億5153万5千円の増額をしております。これは主に、開催日数の増及び発売収入の増加に伴う委託料などの増加によるものでございます。

資料の66ページをお願いいたします。専用場外発売所関係経費1億2239万3千円につきましては、各発売所における直近の売上げ状況から、前年度当初予算よりも4257万9千円の減にて算出をしております。

場外発売関係経費につきましては、場間場外の発売日数の減及び売上げの減に伴いまして、前年度と比較しまして、2117万6千円減の3億6965万7千円を計上しております。

包括的民間業務費7億8584万5千円につきましては、前年度当初予算額と比較しまして5053万5千円の減としております。これは、包括的民間委託契約に基づきます収益保証額を差し引いた歳入から、対象となります歳出を引いたもので算出しております。

次に、賞典費、賞金につきましては、12億1173万1千円と、開催日数の増加に伴いまして、前年度と比較しまして1609万4千円の増としております。

次に、小型自動車競走場施設改良基金管理費につきましては、今後の施設改修工事費を見込

みまして、施設改良基金積立金として、1億7千万円を計上しております。なお、令和6年度末の基金の残高は、16億5603万円を見込んでおります。

次に、管理費、施設改善費につきましては、最終年度となりますメインスタンド整備事業費に4億7898万7千円、それから施設改善事業費としまして、機器の借上料、競走路緩衝柵改修工事、それから進入防止柵設置工事、その他の各所改修工事等に2億6170万7千円を計上しております。

67ページをお願いします。令和7年6月竣工予定のメインスタンドの落成式に必要な経費としまして、600万円を落成式実行委員会への負担金として計上しております。公債費につきましては、メインスタンド整備事業に係る市債の償還を行うもので、元金、利子それぞれを計上しております。

予備費につきましては、施設改良基金積立てを行うことから、1億1071万5千円を計上しております。この額が、令和7年度の単年度黒字の見込額となります。

以上、簡単ですが補足説明を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

○城丸委員

65ページの一番上の表なんですけど。受託というのがありますけど、これはどういうものですか。本場、ミッドナイト、場外、それから受託というのがありますけど。

○公営競技事業所副所長

こちらの受託の数ですが、他場で開催するレースを飯塚のほうで受託する日数といいますか、レースになります。

○城丸委員

その前に場外というのがありますよね。これは、要は、2つ一緒に売ることがあるということでしょうか。

○公営競技事業所副所長

こちらの場外の数につきましては、本場開催分を場外で売ってもらう数となります。

○城丸委員

それで、専用場外関係経費というのがありますけど、現在、専用場外はどれぐらいあるんですか。

○公営競技事業所副所長

飯塚の管理施行の部分が、10か所ございます。

○城丸委員

それと、場外のときに、ほかの場の専用場外でも売っていただけるんだと思いますけど、全国にオートレース場として場外は幾つくらいあるんですか。

○公営競技事業所副所長

昨年の5月時点でございますけれども35か所になっております。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○瀬戸委員

歳入の1のところでは本場、場外、専用場外、民間ポータル、売上計、返還金とありますけれど、返還金とはどういう意味か教えてください。

○公営競技事業所副所長

こちらの返還金につきましては、レースが不成立であったり、その選手がレース前に欠場になった場合に、お客様に関係なくそのままお返しする金額となっておりますので、4億円をそのまま計上させていただいております。

○瀬戸委員

令和6年度は4億円あったから、今年も4億円を一応上げているという、それだけですか。

○公営競技事業所副所長

この分についてなかなか予測がつきませんので、前年度と同じ額ということで計上させていただいております。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第7号 令和7年度 飯塚市小型自動車競走事業特別会計予算」については、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に「議案第8号 令和7年度 飯塚市農業集落排水事業特別会計予算」を議題といたします。執行部の補足説明を求めます。

○企業管理課長

「議案第8号 令和7年度 飯塚市農業集落排水事業特別会計予算」の補足説明をいたします。

予算資料の3ページ、当初予算集計表、特別会計の上から5段目に農業集落排水事業を記載しております。歳入歳出予算の総額を2786万5千円とするものでございます。

その主な内容につきましては、予算概要書で説明させていただきます。68ページをお願いいたします。本事業は、令和4年度より、本市における汚水処理事業を一体的に取り組んでいくため、企業局が事務委任を受け、実施しているものでございます。

まず、歳出からご説明いたします。一般管理費503万9千円は、企業局への事務委任負担金でございます。施設管理費の881万6千円は、施設の維持管理にかかる経費で、主なものとしては、光熱水費、維持補修費、維持管理委託料、汚泥抜取等委託料などでございます。公債費では、市債償還金として元金で1201万6千円、利子で99万4千円を計上しております。

次に、歳入のご説明をさせていただきます。分担金及び負担金は、農業集落排水事業分担金、1件分の17万円、使用料及び手数料で、集落排水処理施設使用料を452万9千円としております。繰入金では、歳入歳出の収支のバランスを取るために、2316万5千円を計上しております。

以上、簡単でございますが補足説明を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

○坂平委員

農業集落排水、これは旧筑穂町かな。これは市債の部分があと何年ほど残っていますか。

○企業管理課長

令和12年になっております。

○坂平委員

この利用者件数は何件ぐらいあるんですか。

○企業管理課長

今現在、接続戸数は118戸となっております。

○坂平委員

この部分は今現在、毎年支出が大きいんですよ。農業集落排水は、老朽化がものすごく進んでいると思うんですよ。将来どんなふうにするかの考え方は持たれていますか。

○企業管理課長

この農業集落排水事業につきましては、現在、この施設を継続して運営していくのか、それともこの施設を廃止して、合併処理浄化槽、そちらのほうに変更していくのか、その2点で地元自治会等に説明を行っている状況でございます。

○坂平委員

ここの家屋を合併浄化槽に変更すると。この農業集落排水はもう老朽化が進んでいますが、あと何年ぐらいもつ予定ですか。

○企業管理課長

大規模改修を令和13年度ぐらいに見込んでおりますので、まず、利用につきましては予防的な補修をしておりますので、すみません、いつまでというところは、はっきりと申し上げにくいです。

○企業局次長

平成13年度に供用を開始いたしております。施設の処理場の躯体の標準耐用年数が50年でございますので、それから考えますと、令和33年度までが標準耐用年数で利用できるというふうに考えております。

○坂平委員

耐用年数が50年。毎年これに維持管理費等々、それと修繕費あたりを考えると、件数が118件、そしてこれの1戸当たりの収入計算等で計算しますと、早く地元の利用者の方々と話して、合併浄化槽に移行しないと、この農業集落排水の耐用年数は50年ということだけど、実際にはそこまでもたないんじゃないですか。今飯塚市とかふくおか県央環境広域施設組合でも、し尿処理場、これの貯留槽が劣化して、これに費用がどんどん、どんどんかかっていくわけですよ。これには酸化した水分が入ってきますので、劣化の状況が50年対応ということだけど、実際にはそこまでもっていません。早く地元の方々と話して、合併浄化槽に移行してもらうような、市の負担で変えていっても、将来を考えるとそっちのほうの方が効率的になるのではないですか。その辺りを十分検討してください。お願いします。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第8号 令和7年度 飯塚市農業集落排水事業特別会計予算」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第9号 令和7年度 飯塚市地方卸売市場事業特別会計予算」を議題といたします。執行部の補足説明を求めます。

○農林振興課長

「議案第9号 令和7年度 飯塚市地方卸売市場事業特別会計予算」につきまして、補足説明をいたします。

予算書の391ページをお願いいたします。第1条で歳入歳出予算の総額を、歳入歳出それぞれ1億8800万7千円とするものでございます。その主な内容につきまして、事項別明細書にて、歳出からご説明をいたします。

予算書の395ページをお願いいたします。1款1項1目、一般管理費の1492万9千円

は、職員2名分の給与等でございます。2目、市場管理費の7133万6千円は、市場施設の維持管理に係る経費を計上しておりまして、その主なものとしましては、光熱水費及び次の396ページに記載しております維持補修費、各種点検委託料等となっております。なお、光熱水費につきましては、現在業務を休止しております花き部に、新たな卸売業者が入場し、業務を再開することを想定いたしまして、花き部にかかる金額も計上いたしております。

次に、397ページをお願いいたします。2款1項、公債費の1億74万2千円は、市債償還金として計上しております。

次に、歳入についてご説明いたします。

戻りまして394ページをお願いいたします。1款1項1目、地方卸売市場使用料は6382万6千円を計上しております。なお、使用料につきましても、先ほどの光熱水費と同様に、令和7年度中に花き部を再開することを想定しまして、花き部使用料も計上いたしております。2款1項1目、一般会計繰入金では、9148万3千円を計上しまして、収支バランスをとっております。4款1項1目、雑入の3269万7千円の主なものは、施設使用光熱水費負担金でございます。

以上、簡単ではございますが、補足説明を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありますか。

○瀬戸委員

花き部が一応開場するということで予想してということでしたけれど、今、現状どういうふうになっていますか。

○農林振興課長

令和6年8月24日に花き部を休止して以来、再開を目指して、飯塚花商組合や飯塚花き園芸組合などの市場関係者と協議を行いながら、新たな卸売業者の交付先を選定し、相手方と交渉を進めております。

昨年12月10日開催の経済建設委員会でご説明しました経過以降の状況についてお答えをさせていただきます。昨年12月に、飯塚花商組合及び飯塚花き園芸組合の役員の皆様とともに県内の花卉卸売市場で最も取扱高が多い福岡花市場並びに北九州花市場の開設者であります福岡県花卉農業協同組合を訪問しまして、引受けの検討をお願いいたしましたが、引受けはできない旨の回答がなされております。

次に、本年2月に、飯塚花商組合及び飯塚花き園芸組合の役員の皆様とともに、久留米花市場の開設者であります久留米花卉農業協同組合を訪問しまして、検討をお願いいたしましたが、先日、引受けができない旨の回答がなされているという状況でございます。

○瀬戸委員

あちらこちらで言ったけど断られたと。それで、一応予算だけは上げておこうということですが、何かまだほかにも当てがあるんですか。

○農林振興課長

今後の取組といたしましては、引き続き、県内の卸売業者等を対象といたしまして、飯塚花商組合及び飯塚花き園芸組合と協議の上、交付先の選定を行いまして、一緒に相手方と交渉を進めてまいりたいと考えております。

○瀬戸委員

飯塚花商組合とかと話し合っ、相手方が今、思い当たるところがあるわけですか、皆さんの話で。

○農林振興課長

今現在、次の候補先として、日程調整をお願いしているところがございます。そこにつきましては、福岡市内にあります株式会社九州大田花きというところがございます。

○瀬戸委員

九州大田花きというのは個人ですか、株式会社か何かですか。

○農林振興課長

会社形態でございます。そして、東京でございます全国一の花弁の取扱いを行っております株式会社大田花きというのがございますけれども、ここの100%子会社ということになります。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○坂平委員

396ページの維持修繕費。これは資料のほうでは、青果棟のシートシャッターが1640万円。これは卸売市場が出来上がって築何年になりますか。

○農林振興課長

今の施設が開業いたしましたのが令和3年5月でございますので、経過としては、3年9か月でございます。

○坂平委員

先日内容の説明を聞かせていただきました。築年数からいうと、冷凍庫の入り口のシャッターということで、回数が30万回の期間しかもたないと。1日に何回ぐらい、上げたり下げたりするんですか。

○農林振興課長

青果棟のほうに設置しておりますが、5か所ございます。2月19日に確認いたしましたところ、既にもう30万回を超えている箇所もございます。そこで、一番多い開閉回数となっておりますシャッターが42万3千回ほどございますので、それを1日当たりに直しますと、約350回の開閉ということで試算しております。

○坂平委員

このシートシャッターはこの回数を使用すると、毎回付け替えないといけないんですか。

○農林振興課長

今の状況で申し上げますと、この3年9か月ですけど、約4年ぐらいで交換時期が来るということを見込んでおります。

○坂平委員

実際に消耗品とはいえども、これだけの費用が3年に1度、替えなければいけないということになってくると、財政的に非常に厳しい状況の中で、収入がそこまでないわけでしょう。だからその辺り少し、どういった方法があるかということは研究する必要があるんじゃないですか、行政として。だから、その辺りは、先日も言いましたけど、透明のシャッターでないといけないのかどうかということも十分研究して、費用のかからないような方法を考えてください。というのが、普通は個人の住宅にしても、大きな長尺シャッターにしても、これだけの年数で付け替えるということは、一般的に考えられないわけです。だからその辺り、あなた方もいろんなメーカーがあると思いますので、十分検討して、使用の仕方、そしてまたそれだけの大型のシャッターが1枚必要なのかどうかということも考えて、恐らくフォークリフトが出入りするのだろうと思うんですよ。だから、コンパクトな出入口を造るとか、いろんな方法をちょっと考えてください。お願いしておきます。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○城丸議員

先ほどの委員の質問と重複するんですけど、花き部の3か所、福岡、北九州、久留米とご相談に行かれていますんですけど、大体断られる理由、向こうがやめておこうと言う理由はどん

なものがあつたんでしょうか。それをちょっとお聞きしたいんです。

○農林振興課長

福岡花市場と北九州花市場は、同一の開設者でございますので、福岡県花卉農業協同組合から伺いました理由としましては、昨年従業員の方が離職されたこと等によりまして、人員体制を確保できないということで、お引受けはできないという連絡がっております。また久留米花卉園芸農業協同組合におかれましては、同じく人員体制を確保できないということと、飯塚市で事業を行う上で採算が取れる見通しが立ちにくいということで、引受けはできないという連絡がっております。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第9号 令和7年度 飯塚市地方卸売市場事業特別会計予算」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第10号 令和7年度 飯塚市駐車場事業特別会計予算」を議題といたします。執行部の補足説明を求めます。

○建設政策課長

「議案第10号 令和7年度 飯塚市駐車場事業特別会計予算」につきまして、補足説明いたします。

予算書の409ページをお願いいたします。第1条において歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ3268万1千円と定めるものでございます。その主な内容につきまして、412ページ以降の歳入歳出予算事項別明細書にてご説明いたします。

それではまず、歳出からご説明いたします。414ページをお願いいたします。1款、駐車場事業費、1項、駐車場事業費、1目、一般管理費の659万6千円は、駐車場運営に係る職員給与費を計上いたしております。前年度予算額との差額58万2千円につきましては、担当職員の変更はございませんが、人事院勧告による人件費上昇分の増額となっております。

2目、駐車場管理費の189万9千円につきましては、飯塚立体駐車場指定管理委託料などの駐車場管理に伴う関係経費を計上いたしております。前年度予算では、令和6年7月からの新紙幣発行に伴う精算機ユニットの交換費用や、破損したシャッターの工事費などを含んでおりましたことで、249万円の減額となっております。

次に、415ページをお願いいたします。2款、公債費、1項、公債費の611万6千円につきましては、市債償還の元金と利子を計上いたしましたものでございます。

次に、歳入につきましてご説明いたします。2ページ戻っていただきまして、413ページをお願いいたします。1款、使用料及び手数料、1項、使用料、1目、駐車場使用料の1748万4千円につきましては、飯塚立体駐車場の使用料を計上いたしております。駐車場使用料につきましては、今年度、令和6年度における決算見込額により計上いたしております。124万9千円の減額となっております。2款、繰入金、1項、一般会計繰入金の1519万6千円につきましては、一般会計からの繰入金を計上して、収支のバランスを取っております。

以上、簡単ではございますが、「議案第10号」の補足説明を終わらせていただきます。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

○瀬戸委員

これはもう結局、繰入金がないと全く赤字ということですね。

○建設政策課長

最終的には一般会計の繰入金は入っておりますが、駐車場会計といたしましては黒字という形にはなっております。

○瀬戸委員

使用料の収入が1748万4千円でしょう。そして事業費が2556万5千円。今までの公債費とかも、何年まであるか知りませんが、それを払って採算は取れているんですか。

○建設政策課長

全体の事業費自体は、今言われた使用料のみではちょっと賄えておりませんので、今、一般会計の繰入金という形で補っていただいているというところがございます。

○瀬戸委員

これはコスモスコモンの横の駐車場1件のみでしょう。もう考えて、どこかに売ったほうがいいんじゃないですか。

○建設政策課長

こちらにつきましては、委員が言われますとおり、コスモスコモン横の立体駐車場となっておりますので、今、委員が言われるように、今後の在り方等も検討していかないといけないところであろうかと思っておりますので、そういうことも市内部で今後、調査・研究をしていきたいとは思っております。

○瀬戸委員

公債費の返還はいつまであるんですか。

○建設政策課長

令和20年度までとなっております。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第10号 令和7年度 飯塚市駐車場事業特別会計予算」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第11号 令和7年度 飯塚市工業用地造成事業特別会計予算」を議題といたします。執行部の補足説明を求めます。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

「議案第11号 令和7年度 飯塚市工業用地造成事業特別会計予算」につきまして、補足説明をいたします。

予算書425ページをお願いいたします。第1条で、歳入歳出予算の総額を、歳入歳出それぞれ1億9839万7千円とするものがございます。詳細につきまして、事項別明細書により歳出からご説明させていただきます。

430ページをお願いいたします。第1款、第1項、栗尾工業団地整備完了後の管理費66万円と、工業用地造成事業費として、企業誘致用地不足の解消のため、筑穂地区にある飯塚あかね工業団地として整備する造成事業費1億8773万7千円を計上いたしております。第2款、第1項、予備費につきましては、1千万円を計上いたしております。

続きまして、歳入をご説明いたします。1ページ戻っていただきまして、429ページをお

願いたします。第1款、第1項、国庫補助金につきましては、飯塚あかね工業団地整備事業費に対する補助金として2890万円を計上いたしております。第2款、第1項、一般会計繰入金につきましては、栗尾工業団地管理費及び飯塚あかね工業団地造成事業費、予備費に計上する歳出予算額の不足する額3079万6千円を計上いたしております。第3款、第1項、繰越金につきましては1千円を計上いたしております。第4款、第1項、市債につきましては、1億3870万円を計上いたしております。

続きまして、繰越明許費をご説明いたします。2ページ戻っていただきまして、427ページをお願いいたします。第1款、第1項、工業用地造成事業費の飯塚あかね工業団地造成事業費の調査測量設計委託料のうち、実施設計業務分の8694万6千円につきましては、年度内での事業完了が見込めないため、繰越明許費を設定するものでございます。

続きまして、地方債をご説明いたします。起債の目的といたしましては、飯塚あかね工業団地造成事業費のために借り入れるものであり、限度額は1億3870万円となっております。起債の方法は普通貸借または証券発行、利率は4.0%以内となっております。償還の方法といたしましては、政府資金については、その融資条件により、銀行その他の場合にはその債権者との協定によるものとする。ただし、市財政の都合により据置期間及び償還期限を短縮し、もしくは繰り上げ償還または低利に借換えをすることができるとなっております。

431ページをお願いいたします。最後になりますけれども、地方債の前年度末及び当該年度末における現在高の見込みに関する調書でございます。前年度末現在高見込額が1億6240万円となり、当該年度中起債見込額が1億3870万円の増となりますことから、表の一番右の欄になりますが、当該年度末現在高見込額は3億110万円となっております。

以上、説明を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありますか。

○坂平委員

430ページ、2目の飯塚あかね工業団地造成事業費の部分で、ここに技術者派遣手数料がありますよね。調査測量設計委託料と両方ありますが、技術者派遣手数料とはどういった内容ですか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

こちらにつきましては、設計業務等を行う際に、専門の職員につきまして派遣を行うものでございます。市役所のほうに派遣で来ていただいて、事業をしてもらうものとなっております。設計業務等に関しましては、専門の職員につきまして、民間のほうから市役所のほうに派遣されて、こちらの市役所のほうで業務を行っていただく費用となっております。

○坂平委員

これは何名ですか。それと期間はどのくらいですか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

1名での予算計上となっております。期間は1年間となっております。

○坂平委員

実際に調査測量設計委託料ということで上がっていますよね。これは、事業をした後に、この技術者派遣手数料というのが発生するんじゃないのですか。同時に並行してやるのですか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

同時となっております。

○坂平委員

そしたら、事業が始まった後はもう、この技術者派遣手数料というのは上がって来ないんですか。調査測量設計委託というのは、設計を委託するんですよね。これはどういった作業をするんですか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

飯塚あかね工業団地の測量設計に伴いますチェック等を行っていただく職員となっております。

○坂平委員

いまいち説明の意味が理解しにくいんだけど、設計委託をするわけでしょう。それを派遣技術者の方に全部チェックしてもらおうんですか。だから、仕事の内容はどういったことをさせるんですか。それとも、例えば工事が始まったときに、工事管理として派遣技術者を入れるんですか。設計の段階で入れるんですか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

都市建設部の職員の代替となりまして、調査測量業務もございますが、工事についても派遣ということで来ていただくことになっております。

○坂平委員

これは、今年度は1名で1年間ということで、先ほど言われましたよね。事業が始まってからも、またこれが発生するということですか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

はい。再来年度の予算のほうでも計上する予定としております。

○坂平委員

副市長、これだけ、今、飯塚市には技術者が少ないということですよ。派遣技術者が1名で2千万円。今後は、やはり総体的に見て、技術者の育成をしっかりと考えていってもらわないと、今からこういった企業誘致とか大型事業をやるには、こういった技術者の人数が恐らく少ないと私も思います。だから、それをしっかりと育成していくような形のものを、やはり今後考えていかないと。倍以上の費用がかかっているんですよ。

おまけに、設計委託を出すわけでしょう。設計委託ということは、図面から数量表から全部持ってくるわけですよ。その再チェックをするだけの話ですよ。今は全部コンピューター化されていますからね。もうほとんど、時間的にそんなにかからないと思うんですよ、技術的に能力があれば。だから、そういったことも含めて、人事のほうにもしっかりと育成するように指導してください。お願いします。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○瀬戸委員

今まで工業団地をいろいろ造ってきましたけど、そのときもこういう技術者派遣というのが何例かありましたか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

鯉田工業団地を造成したときに、この派遣は行っております。

○瀬戸委員

鯉田工業団地にしろ、今回の筑穂の工業団地にしろ、炭鉱跡地ということで、やはり特別に技術者がいないと、測量はどこでもできると思うんですけど、設計内容が技術者がいないと非常に不安だということで、こういう技術者がいるんですか。

○都市建設部長

今、質問委員がおっしゃられるとおり、今までの経緯といたしましては、例えば浸水対策事業で、そういったときも派遣技術者を置いております。今現在も置いております。今回の飯塚あかね工業団地につきましても、期間が限定された事業になると思うんです。そういったときも、今回は派遣をします。先ほど坂平委員のほうから意見がありましたけども、今、全国的にも確かに技術者が少ないというところは報道等でもあっております。多分に漏れず飯塚市のほうでも、技術職の採用については非常に苦慮しているところがございます。今後も飯塚あか

ね工業団地をやるというのは決まっておりますので、そこは限定的にやりながら、あとは技術職の職員の技術力向上というのは、我々のほうも常に技術職の会議とかを開きながらやっておりますので、そういったところに対応したいというふうに考えております。

○瀬戸委員

炭鉱の跡地だから特別ということではないんですね。

○都市建設部長

そのとおりでございます。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○深町委員

今、進捗状態はどういうふうになっていますか。飯塚あかね工業団地の造成は、あと何年ぐらいで終わるといった感じなんでしょうか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

現在の進捗でございますけれども、今、基本設計業務のほうを、令和7年度まで行う予定としておりまして、今回予算計上させていただいております実施設計のほうにつきましては、来年度及び再来年度、令和8年度を予定しておりまして、令和10年度の供用開始をめどとしているところでございます。

○深町委員

そうすると、今年度、令和7年度でこういう費用が発生してきているんですけど、令和10年度までに総合計でどのくらいの費用が発生するんでしょうか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

現時点でまだ数字のほうは出ておりませんが、設計業務の中で精査をしてみたいと考えております。

○深町委員

令和7年度でこの数字で上がってきているからと言って、これが3倍、4倍になるという意味ではないんですね。発生する費用というのはどういうものがありますか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

設計を含め、今後また造成工事等が入ってまいりますので、その点については今後、設計等の中で、精査してみたいと考えております。

○深町委員

10年度に完成するということなんですけど、応募はいろいろ来ているんでしょうか。今は1か所だけドーケンさんが決まっているということなんですけど、あとの区画に対して、そういう要望とかは、かなり来っていますか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

今、委員からご意見ございましたけれども、昨年9月に1件、ドーケンのほうに先行用地ということで売却をいたしました。残りの区画といいますか、計画につきましては、現在基本設計を行っている段階でございますので、まだ実際の区画がどうなるかというのはまだ決定しておりませんが、企業からの問合せにつきましては、年間十数件程度はあっております。ただこれは市全体での進出企業を希望されているとか、相談という件数になっておりまして、この飯塚あかね工業団地に限定したというところでは特に当てがえないような状況ではございますが、令和10年度の開設に向けて、今、進めているというところで、問合せ企業に対してはお答えしているような状況となっております。

○深町委員

分かりました。では、10年度までに、今、飯塚市の全体に対して、募集応募をかけているので、飯塚あかね工業団地の部分というのはどのぐらいかは分からないと。十数件以上の応募、

問合せの中で、その中の何件かは飯塚あかね工業団地にも触れているということなんですかね。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

紹介をしているような状況でございます。現在、市内には23の工業団地がございますけれども、完売状態ということになっております。栗尾工業団地が今年度に整備が終わりまして、来年度から開設することになりますけれども、そういったところも含めまして、紹介のほうをしているような状況でございます。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第11号 令和7年度 飯塚市工業用地造成事業特別会計予算」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

暫時休憩いたします。

休 憩 11:32

再 開 11:40

委員会を再開いたします。

次に、「議案第12号 令和7年度 飯塚市汚水処理事業特別会計予算」を議題といたします。執行部の補足説明を求めます。

○企業管理課長

「議案第12号 令和7年度 飯塚市汚水処理事業特別会計予算」について、補足説明をいたします。

予算資料の3ページ、当初予算集計表、特別会計の上の段から9段目に汚水処理事業を示しております。歳入歳出予算の総額を2647万円とするものでございます。

その主な内容につきまして、予算概要書で説明をさせていただきます。

72ページをお願いいたします。本事業は、企業局が事務委任を受け、実施しているものでございます。まず歳出からご説明をいたします。一般管理費1127万1千円は、今後の事業の在り方についての検討費用を含む企業局への事務委任負担金でございます。施設管理費の1419万9千円は、施設の維持管理にかかる経費で、主なものは光熱水費、維持補修費、維持管理委託料、汚泥抜取等委託料などでございます。

次に歳入のご説明をいたします。汚水処理施設使用料につきましては、1434万3千円を計上しております。繰入金につきましては、事務員の人件費に係る一般会計繰入金1127万1千円を計上いたしております。

以上、簡単でございますが、補足説明を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

○瀬戸委員

歳入に財産運用収入というのがありますよね。これは土地か何かを貸してあるんですか。85万5千円かな。

○企業管理課長

こちらのほうにつきましては、汚水処理施設整備基金の運用収入でございます。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第12号 令和7年度 飯塚市汚水処理事業特別会計予算」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第13号 令和7年度 飯塚市水道事業会計予算」を議題といたします。執行部の補足説明及びさきの本会議において審査要望のあった件の答弁を求めます。

○企業管理課長

「議案第13号 令和7年度 飯塚市水道事業会計予算」について、補足説明をいたします。公営企業会計の予算につきましては、一般会計の官公庁会計と異なり公営企業会計での複式簿記となります。補足資料を作成しておりますので、その資料に沿って説明をいたします。

資料1「令和7年度飯塚市水道事業会計予算」をお願いいたします。

まず、3ページをお願いいたします。水道事業の推移でございますが、令和5年度までは決算値を令和6年度は決算見込みで表示をさせていただいております。令和7年度の業務予定量は、給水戸数6万545戸、年間総給水量1221万2590立方メートルとしております。

次に、収支の状況についてご説明いたします。4ページをお願いいたします。この資料の金額につきましては、概算になりますのでご了承ください。収益的収支は税込みの予算書ベースで、収入合計が28.6億円。支出合計は26.9億円。差引き1.7億円となっております。収支の結果、損益計算では消費税分を差し引きますので、純利益が0.7億円となり、内部留保資金への積立てといたします。

5ページをお願いいたします。収益的収支の令和6年度当初予算額との比較になります。料金収納の増につきましては、給水戸数の増加や大口使用者の使用水量の増加を見込んでおるところでございます。

6ページをお願いいたします。資本的収支につきましては、収入の合計が9.8億円。支出合計は22.2億円となります。資本的収支は、不足額が12.4億円となり、この分につきましては、内部留保資金から補填をいたします。

7ページをお願いいたします。資本的収支の令和6年度当初予算額との比較になります。

8ページをお願いいたします。内部留保資金、企業債残高及び当期純利益の推移でございます。グラフの下の表に記載しておりますが、令和7年度は0.7億円の純利益を見込んでおります。なお、参考としまして経営戦略における令和7年度計画値を表記しておりますが、令和7年度当初予算と比較しますと、物価高騰等により純利益が1.7億円減少しており、厳しい経営状況となっております。

9ページをお願いいたします。令和7年度の主な事業としましては、「津原導水管布設替工事」外で管路の工事などを実施します。

また、10ページをお願いいたします。令和7年度の新たな取組でございます。漏水調査の効率化、調査費コストの削減等を図るとともに、発見困難箇所を効率的に発見し修繕することで、水道の安定供給と有収率の向上に寄与することを目的に、人工衛星を用いた漏水調査を行う予算を計上しております。

この事業につきましては、3年サイクルで実施するものでございまして、令和7年度に人工衛星画像を用いてAI解析を行い、漏水の可能性のあるエリアの絞り込みを行います。令和8年度は絞り込みエリアを、音聴等の従来の方法により調査を行い、令和9年度に修繕を行うこととしております。

なお、詳細な内容につきましては別紙資料「人工衛星を用いた漏水調査」を参照いただきま

すようによろしくお願ひいたします。

併せまして、昨日の本会議の「議案第13号 令和7年度 飯塚市水道事業会計予算」の議案質疑の中で、川上議員から審査要望がありました「飯塚市上下水道事業等あり方検討業務委託料」について報告をいたします。現在進めております水道施設などの最適化の検討結果を踏まえ、総務省からの要請による経営戦略の見直しや、事業の経営分析等に関する指導助言を求め、公営企業の経営に関する事項を総合的に検討し、改善する取組として、「飯塚市上下水道事業等あり方検討業務委託」を行っております。実施期間は令和6年度から8年度までとしており、委託業務終了後も、職員が財政シミュレーションや経営戦略等の策定が容易にできるように、今後の事業運営をより効果的、効率的に実施することができるよう、ノウハウを身につけるための支援を受けることとしております。

もう一点、審査要望があっておりますので、そちらのほうにつきましては、上水道課から答弁を行います。

○上水道課長

先日の審査要望について、過去5年間の「水道事業、薬品納入業者の推移」をお願いいたします。

この表のとおり、令和5年度につきましては、高機能粉末活性炭を除く4薬品を飯塚市水道施設運転管理及び料金収納等業務委託にて調達しておりますので、令和元年度から令和4年度までの各薬品の納入業者の推移をお示しさせていただいております。

以上、簡単ではございますが、説明させていただきました。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

○道祖委員

本会議で審査要望があっていたもので、資料が出ておりますけど。水道事業の薬品納入業者の推移、これを見ますと、令和5年度、指定管理者のほうの名前が載っておりますでしょう。薬品の納入業者ではないんですね。だからこの点は、やはり指定管理者がどこから次亜塩素酸ソーダを購入しているのかははっきりさせておかないと、審査要望の内容に対して若干答えに至らないような気がいたしますので、この4つについては、どこの業者から指定管理者が納入してもらっているのか、確認をしていただいていたほうがいいと思います。

○上水道課長

申し訳ありません。説明が不十分でありましたことをおわび申し上げます。

実際に納入する業者については、水 i n g 株式会社というところから納品していただいております。この推移の表の中の一番下、ケイ・イー・エス第一環境共同企業体の下に、括弧書きで示させていただいております。

○瀬戸委員

今言ったケイ・イー・エス第一環境共同企業体と水 i n g は同じグループなんですか。

○上水道課長

申し訳ありません、その点について、今のところ把握できておりません。

○瀬戸委員

ちょっとそれは把握してくださいよ。以前の納入業者は3つとも、結局、本当に薬品会社から直接入っているんだと分かりますけど、薬品会社じゃないところもあるんじゃないかなと見受けられるんですけど。水 i n g 株式会社さん、ここは薬品会社なんですか。

○上水道課長

この水 i n g 株式会社は、薬品も販売をしておる業者であります。

○瀬戸委員

仕入れて販売しているということですね。

○上水道課長

製造はしておらず、仕入れて納品していることと判断しております。

○瀬戸委員

これは入札か何か行っているんですか。

○上水道課長

委託業務の中に含まれる薬品については、業者から直接この水 i n g 株式会社に依頼をされているものと考えております。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○道祖委員

詳細について掴んでいないなら、やはり、この会社がどこの薬品会社から入れているかは把握していたらいいと思いますよ。と、申しますのは、今、世の中、有機フッ素化合物の問題が出ていますから、直接的には関係ないかも分からないけれど、やはり薬品の製造元ということは確認しておいたほうが、今後のため、対応がしやすいのではないかと思いますので、今、分からないならば、そういう確認をしていただきますよう要望します。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○瀬戸委員

これは要望ですけど、できたら、ケイ・イー・エスさんと第一環境共同企業体、水 i n g さんの会社の役員とか会社の概要を出してもらっていいですか。

○上水道課長

後日提出をさせていただきたいと考えております。

○瀬戸委員

昼からでいいですよ。

○上水道課長

本日は難しいかとは思いますが、そろい次第、提出をさせていただきたいと思っております。

○瀬戸委員

取り消します。個人的でいいです。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○坂平委員

ちょっとくどいようだけど、この令和5年度から指定管理でこれをされているんですね。この書き方を見ると、それぞれの医薬品がありますよね。これを指定管理の中に入れて、発注という契約をしているんですか。

○上水道課長

運転管理委託の中でこの薬品の分を6年度は委託をしております。

○坂平委員

これは1年1年更新をしていくんですか。指定管理は10年でしょう。10年間のこの薬品の分については、1年1年その価格の変動でそのまま委託をするんですか。どんなふうな内容になっているんですか。

○企業管理課長

この運転管理委託の中で、薬品費ということで年間3千万円という設計をしております。この分に関しまして、これが増えた場合、減った場合、プラスマイナス5%につきましては協議して行うというような形で契約を行っているところでございます。7年度当初につきましては、現在の物価高騰と医薬品の増加を含めまして、この分につきましては、市のほうで調達すると

というような形で委託契約内容を見直すことをしております。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○瀬戸委員

このケイ・イー・エス第一環境共同企業体に、何年前から委託をされたんですか。今言われた集金まで含めたところの浄水場の管理ですよ。

○企業管理課長

現契約は令和5年度からになっております。

○瀬戸委員

そのときは、薬品はそれぞれ入札でやってあって、今回から委託会社は勝手に薬品を仕入れていいというふうにされたんですか。

○企業管理課長

現在の、令和5年度からの契約の中で、薬品費につきましても、委託契約ということで委託業者のほうで調達をしていただくというような形になっております。今、私のほうがちょっと説明させていただいた、令和7年度以降につきましても、委託契約ではなく、市のほうで調達するというような形で考えております。

○瀬戸委員

ちょっとその意味がよく分からないんだけど、現年度からは市がまた、入札か何かでやるということですか。そんなことがころころ変えられるんですか。何の理由があるんですか。おかしいでしょう。

○委員長

暫時休憩いたします。

休 憩 12:02

再 開 12:57

委員会を再開いたします。

○企業管理課長

先ほどの薬品費の答弁について、再度答弁させていただきたいと思います。先ほどと重複する点もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

今回の、令和5年度からの委託契約において、当初から薬品の調達についても委託契約としております。内容につきましては、この薬品費の調達につきましても3千万円を設計金額として考えております。この3千万円がプラスマイナス上下する場合、こちらのほうにつきましても、5%まではこの委託契約内で行いますけれども、それを超えた場合につきましては協議を行うというような委託となっております。この薬品費の調達につきましても、現在の物価高騰や薬品費、カビ臭物質の大幅な増加等により、粉末活性炭等の薬品使用量が経常的に大幅増となっているため、令和7年度より、運転管理委託より除外することを考えております。

○瀬戸委員

当初から、薬品の納入もできるような契約だったということですよ。何年間かは、薬品は取り扱ってなかったけれど、去年からは薬品も一緒に取り扱うというような形になった。それまではやられていなかった。よく理解しました。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○道祖委員

今回も管路の老朽化に伴い、布設替えの予算が組まれておりますけれども、今回これを布設替えして、老朽管の布設替えに該当する管路延長に対して何%の進捗になるのですか。

○企業管理課長

管路延長約950キロメートルに対して、現在、耐震化を含む更新が終わっている部分が、全体の約26.1%の250キロメートルとなっております。今年度の進捗率といたしましては、0.6%の増となっております。

○道祖委員

約950キロメートルの管路延長がある。これは合計が、全部含んだ形だとは思いますが、昨今、各地で水道管の老朽化による道路陥没等が発生しておりますよね。そういうことから考えますと、飯塚市にも老朽化した100ミリ以上の大きな口径の水道管があると思うんです。大きな口径の管路がどれぐらいあって、それに対しての進捗がどれぐらい更新されているのかが、現時点で分かれば示していただきたい。もしできないとするなら、後日で結構です。それに対しての進捗が、今日聞いたように、0.6%の管路の布設替えの計画でしかないということですよ。今後大口径については、いつまでに耐用年数を過ぎたものに対して布設替えをしていくのか、考えがあるなら示していただきたいんですけど、今、答弁ができないなら後日でも構いません。どういう状況か確認をしたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

○上水道課長

ただいま資料が手元にありませんので、後日、提出のほうをさせていただければと思います。

○石田企業管理者

大口径管路の老朽化対策をいつまでにやる計画になっているかというお尋ねに関しましては、ただいまの経営戦略の中で考えておりますが、大規模な断水を何とか防いでいく最低限の改修、重要な施設とか、水の供給を絶やすことができないような施設に向けての老朽化対策を中心にやっておりますので、現時点ではいつまでという計画は立てておりません。先ほどのあり方検討業務委託の話も申し上げましたが、この中で経営戦略の見直しも同時にやっていくようにしていますので、その辺りも含めて、経営戦略、新たな見直しができる時点で、ご報告をお示ししたいというふうに思います。

○道祖委員

それでも構いませんけれど、単純に言えば、当然老朽管を今以上に更新しようと思えば、それなりの工事費はかかってくると。ですから当然、そうは言っても管が毎年毎年、老朽化していくわけですから、いつまで保証できますよと言うことはできないわけなので、やはりそこは目標を決めてきちっと取り組んでいかないと。企業管理者が言われたように、市民に迷惑をかけないような形で努力していますということですけど、それはそれで結構なんですけれど、1回破裂というか傷んでしまいますと、多大な迷惑がかかるということが見えています。ですので、一度、各地で起きております水道管の破損事故の状況が、どういう状況にあって、どういう事故が起きているのか確認して、改めて飯塚市がどうあるべきか考えて、このあり方検討委員会の中で協議をしていっていただきたいと思います。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○城丸委員

人工衛星を用いた漏水調査委託というのがありますけど、これは令和7年度から始められるわけですね。今までこの漏水調査は、全域840キロメートルを3年かけて歩いて、その発見率は全修繕件数の20%しか発見できなかったということが書いてあります。人工衛星画像を用いてAIで解析した場合に、これは歩いて回るとどれぐらいの違いがあるのかと、それでコスト的に、どれぐらいのコスト削減になるのか、質問します。

○上水道課長

人工衛星を用いた漏水調査の実施について、まず、発見数については、60件増を想定しております。コスト面については、資料の一番下のほうに記載させていただいておりますけれど

も、3年間で約400万円のコスト削減を期待しているところでございます。

○城丸委員

60件増ということですが、それは全修繕件数の何%ぐらいになるんです。

○上水道課長

資料詳細内容の3年目のところに記載させていただいておりますけども、500件の約12%、60件というふうに試算をしております。

○城丸委員

そしたら、全体から言えば32%になるんですか。今まで歩いて調査していたのが、全修繕件数の20%ということ。その12%増ということなので、32%ですか。そういうことではないんですか。12%の増を見つけるために400万円削減できるという考えでいいんですか。

○下水道課長

一応そのように試算をしております。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第13号 令和7年度 飯塚市水道事業会計予算」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第14号 令和7年度 飯塚市工業用水道事業会計予算」を議題といたします。執行部の補足説明を求めます。

○企業管理課長

「議案第14号 令和7年度 飯塚市工業用水道事業会計予算」について補足説明をいたします。

資料2「令和7年度飯塚市工業用水道事業会計予算」をお願いいたします。

2ページをお願いいたします。令和7年度の業務の予定量は、契約件数は6者で、年間総給水量は13万305立方メートルを見込んでおります。

3ページをお願いいたします。収益的収支につきましては、収入合計が5817万円、支出合計は5817万円となり、差引きがゼロとなっております。収支の結果としまして、純利益が0円ということになります。

4ページをお願いいたします。こちらは収益的収支の令和6年度当初予算額との比較となっております。

5ページをお願いいたします。資本的収支は、収入合計が6562万円、支出合計は6662万円となり、不足額が100万円となっております。この不足額は内部留保資金から補填いたします。

6ページをお願いいたします。資本的収支の令和6年度当初予算額との比較ということになっております。

7ページをお願いいたします。内部留保資金等の推移でございます。

8ページをお願いいたします。令和7年度の主な事業としましては、葛原導水管更新事業でございます。

以上、簡単でございますが補足説明を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

(質疑なし)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第14号 令和7年度 飯塚市工業用水道事業会計予算」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第15号 令和7年度 飯塚市下水道事業会計予算」を議題といたします。執行部の補足説明及びさきの本会議において審査要望のあった件の答弁を求めます。

○企業管理課長

「議案第15号 令和7年度 飯塚市下水道事業会計予算」について補足説明いたします。資料3「令和7年度飯塚市下水道事業会計予算」をお願いいたします。

2ページをお願いいたします。令和7年度の業務予定量は、処理件数2万5614戸、年間総処理水量682万6790立方メートルとしております。

3ページをお願いいたします。収益的収支につきましては、収入合計が22.4億円、支出合計が21.4億円、差引き1.0億円となります。収支の結果、損益計算では、消費税分を差し引きますので、純利益が0.7億円となり、内部留保資金へ積立てを行うこととします。

4ページをお願いいたします。収益的収支の令和6年度当初予算額との比較となります。

5ページをお願いいたします。資本的収支につきましては、収入合計が6.9億円。支出合計は14.6億円となります。資本的収支の不足額が7.7億円となり、内部留保資金等から補填をいたします。

6ページをお願いいたします。資本的収支の令和6年度当初予算額との比較となります。

7ページをお願いいたします。「内部留保資金等企業債残高及び当期純利益の推移」でございます。グラフの下の表に記載しておりますが、令和7年度は、先ほど申しました0.7億円の純利益を見込んでおります。なお参考としまして経営戦略における、令和7年度計画値を表記しております。

8ページをお願いいたします。令和7年度の主な事業としましては、施設整備事業として、目尾鯉田汚水幹線管渠布設工事を実施いたします。

9ページをお願いいたします。令和7年度の新たな取組として説明をさせていただきます。ウォーターPPP導入の可能性についての調査委託を実施することとしております。下水道事業におけるウォーターPPP管理・更新一体マネジメント方式導入に向け、課題点を整理し、本市下水道事業の特性に応じたスキームの立案、事業費の算定、導入スケジュールの整理等、官民連携手法の導入の可能性を調査することを目的としております。ウォーターPPPとは、水道関連の分野において、官民が連携して管理・更新を一体的にマネジメントする仕組みでございます。その要件として、原則10年間の長期契約、性能発注、維持管理と更新の一体マネジメント、プロフィットシェアの仕組みを導入することとなっております。また、令和9年度以降に管路改築更新の事業において、ウォーターPPPを導入していることが補助要件となっていることも、導入の可能性を検討する理由の一つとなっております。

なお、詳細な内容につきましては別紙資料「ウォーターPPPについて」を参照いただきますようお願いしたいと思います。

併せて、昨日の本会議の審査要望について説明をさせていただきたいと思っております。

○下水道課長

先に、ウォーターPPPについての説明をいたしたいと思っております。先ほどの説明と重複する点がございませうけど、説明をいたしたいと思っております。

資料のほうをお願いいたします。ウォーターPPPとは、下水道など、水分野の公共施設を

対象とした下水道事業の持続可能な運営に向けて、民間企業のノウハウや創意工夫を活用した官民連携となっております。民間事業者が長期的に公共施設を管理することができる管理・方針一体マネジメント方式となっております。

現在の下水道事業を取り巻く環境につきましては、1番に書いております①『ヒト』、②『モノ』、③『カネ』、「ヒト・モノ・カネ」が不足している状況となっております。このような状況も、今後の飯塚市においても、現在の対象が終末処理場・ポンプ場環境で、現在の対象業務としましては、処理場・ポンプ場の運転管理・維持管理業務、汚泥・脱水ケーキの運搬・処分業務、管渠の清掃や緊急修繕業務、水質検査や各機器の点検業務など、現在65業務、20業者で、仕様書発注・民間委託としております。単年度契約、または3年契約。対象を定めた仕様書発注、維持管理業務となっております。これを仕様書発注・民間委託から、ウォーターPPPへ変更しますと、65業務、20業者を一くくりでまとめまして、ウォーターPPPとして運用できるような形となっております。

ウォーターPPPをしますと、安定して持続的な下水道事業の継続が必要になってき、先ほど言いました令和9年度以降の管渠の改築更新では、ウォーターPPPの実施が補助要件となっております。

このウォーターPPPの条件をクリアするためには、4つの要件があります。「長期契約」、原則10年以上になります。「性能発注」、仕様書発注から性能発注ということになります。「維持管理と更新を一体的にマネジメントすること」。4番目に、「プロフィットシェア」ということになります。このプロフィットシェアというのは、下にも書いておりますけど、契約時に見積った維持管理費など、企業努力や新技術の導入により縮減された分を、官民でシェアするような形になってきます。

続きまして、昨日の本会議で審査要求がありました終末処理場の委託の一覧についてご説明いたします。資料のほうをよろしく願いいたします。

下水道事業に係る業務委託のうち、管渠、終末処理場及びポンプ場について、左側に1から12番までの業務名、履行場所、履行期間、契約の形式、請負額、指名業種、受注者を記載しております。契約につきましては、指名入札によるもの、随意契約によるものがございます。

そのうち、1号随契は、発注金額が50万円未満の契約によるもので、2号随契は、器具の設置業者しか受けることができないなどの理由により、指名入札ができない業務の契約となります。

「指名」と記載した業務は、指名により入札を行い、契約をするものとなります。

2号随契のうち、「合特法」と記載しているものにつきましては、下水道の普及に伴い、業務量が減少するなどの影響が考えられる一般廃棄物処理業者に対し、合特法により代替業務の提供を行う業務になります。12番の「終末処理場放流水等の水質検査業務」以外は、同一の業者が継続して受注している状況になります。

ここで合特法の説明を追加でさせていただきたいと思っております。合特法とは、正式には「下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法」といいます。下水道の普及に伴い、し尿処理収集運搬業者及び浄化槽清掃業者は、その業務量が減少するため、事業の転換や縮小、さらに廃止を考えなければならなくなりますが、下水道等によるし尿処理への転換が完了するまでは、市町村は、一般廃棄物処理業等を継続する必要がありますので、下水道の普及による影響を受ける業者の業務の安定を図り、廃棄物も適正な処理にすることを目的に昭和50年に制定しております。

ちょっと説明に不足がございまして、先ほどのウォーターPPPに関して、資料がもう1枚ありまして、その資料をよろしく願います。

別紙2の「ウォーターPPPの通知」をお願いいたします。このウォーターPPPの導入可能性調査をするに至ったものにつきましては、令和5年6月2日に国土交通省水管理・国土保

全局下水道部から、都道府県や政令市に通知された「ウォーターPPPの推進について」において、下水道分野でのウォーターPPPの導入について、積極的に取り組んでいただきたいと記載されることに基づいて、導入可能性調査の委託を計画している状況にございます。

説明は以上になります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

○瀬戸委員

合特法の件ですけど、今の下水道とか、浄化槽の仕事が減って、何かそれに代わるものを、ということでしたけど、これは別にこういうものじゃなくて、草刈りでも何でもいいと聞いています。別にこういうものは、ここに委託しなくてはいけないということはないでしょう。

○下水道課長

大きな縛りはございません。双方協議の上で決定するものになると思います。協定を結んだ上で事業を実施することになりますので、その協定にその内容を、環境対策課とか、事業者、そういった部分で協議の上、決定するべきものだと考えております。

○瀬戸委員

それは飯塚市が協定したということでしょう。ただ、全体的な枠で縛りはないんでしょう。この仕事をやらなくてはいけないとか、そういう縛りはないですね。

○下水道課長

縛りはありません。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第15号 令和7年度 飯塚市下水道事業会計予算」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第16号 令和7年度 飯塚市立病院事業会計予算」を議題といたします。執行部の補足説明及びさきの本会議において審査要望のあった件の答弁を求めます。

○企業管理課長

「議案第16号 令和7年度 飯塚市立病院事業会計予算」について補足説明をいたします。資料4「令和7年度飯塚市立病院事業会計予算」をお願いいたします。

2ページをお願いいたします。収益的収支につきましては、収入合計が6.4億円、支出合計は6.3億円となります。収支の結果、差引き0.1億円となります。病院事業では、この基金額が純利益となりますので、前年度からの繰越欠損金の埋め合わせを行っております。この欠損金につきましては現金の支出を伴わない減価償却費等による経費の不足額が損失となっているものでございます。

3ページをお願いいたします。収益的収支の令和6年度当初予算額との比較になります。

4ページをお願いいたします。資本的収支につきましては、収入、支出ともに、合計額は4.5億円となります。

5ページをお願いいたします。資本的収支の令和6年度当初予算額との比較になります。

6ページをお願いいたします。令和7年度の主な事業としましては、市立病院における小児科休日・夜間診療に係る委託の実施、職員宿舍解体工事及び営業用固定資産の購入として全身用X線CT装置の購入を予定しております。

併せまして、昨日の本会議の「議案第16号 令和7年度 飯塚市立病院事業会計予算」の議案質疑の中で、川上議員から審査要望がありました飯塚市立病院との基本協定書の変更の件について、報告をいたします。

令和6年4月から施行されました医師の働き方改革に伴い、飯塚医療圏の拠点病院である飯塚病院が二次の救急医療に集約されることを表明されたことで、圏域の小児の一次救急体制について協議した結果、飯塚市立病院で対応することになりました。飯塚市立病院は、既に地域医療振興協会が指定管理者となっており、小児科の時間外診療に関し、別途市が飯塚市立病院と委託契約を締結することは、同施設の運営について二重契約となることから、締結ができなかったため、指定管理における基本協定に、指定管理委託料の支払いに関する規定を追加させていただきます。

以上で補足説明を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

○道祖委員

私のほうから、今回、小児科の件ですが、一般会計負担金、本来なら昨年度に気がつくべきだったんですけど、改めて今回これについて、ちょっと分からない点が出てきましたのでお尋ねします。

ここに、「飯塚市立病院の指定管理者による管理に関する協定書」というのがあります。これに、第6条、交付金、「甲は、病床数及び政策的医療に算入される交付税の範囲内で乙に交付するものとし、その交付額は、別途年度協定に定める。2、甲は、乙に行わせる管理業務を対象とした国及び県からの補助金の交付を受けたときは、交付された補助金相当額を乙に交付するものとする。」というふうになっておるわけですけど、これは私ども、この協定書に基づいて病院の経営が運営されているものと思っておるんですけど、この部分については、一般会計から負担金が出ているわけですね。この協定書からいうと、一般会計から負担金はない。国及び県からの補助金の交付金を受けたとき、交付された補助金相当額を乙に交付するものとなっておりますので、これで従来来ていたというふうに理解していたんですけど、今回改めてここに一般会計から負担金をするとご説明いただいたときに、令和6年4月1日から、飯塚市立病院の指定管理者による管理に関する協定書の変更協定書が結ばれているということでありました。ただ、この内容について、私も失念していたんですけど、小児科の医療に対しては市民にとってプラスだからいいことだと思って、納得はしていたんですけど、改めて協定書を読みますと、当初の協定書を読むと、交付税交付金だけでやるというふうになっていたのが、協定が変わっていて、この一般会計からの支出が出るようになったんですけど、これについては、当委員会に協定を、こういうことで変えますという説明が、なされたか、なされていないのか。なされたとするならば、議会でこの協定書を変えるという、議会に対して、当初の協定書については承諾をもらって、今日まで来ていて、協定書の変更について議会の承諾を受けないでよろしいのか、それについてどのような考えなのか、まず1点お聞かせいただきたいと思います。

○企業局次長

協定書の変更につきましては、条例改定等に属さないという考えでありまして、今回、報告はいたしておりません。

○企業管理者

市立病院として実際に指定管理に出す際にこの協定書についてはいろいろ疑義がありまして、議会のほうでも議論いただいたことは、私はこの場所ではありませんでしたが記憶をしております。ですので、今回、指定管理料に関しての小児救急というちょっと特殊な事情があったとはいえ、協定書を変更することになりましたので、所管の経済建設委員会では、予算計上時に

そのことを含めて詳しくご説明を差し上げて、ご了解を得て進めるべき事業であったというふうに反省をしておるところでございます。協定の変更については、ご報告をしておりませんでした。申し訳なく思っております。

○道祖委員

今のご答弁は、議会に対しての説明は一切なしで、飯塚市の代表者、飯塚市長と公益社団法人の地域医療振興協会の理事長さんと協定を結んだと。別に悪いことをしているわけではないから、市民のための医療の充実のために結ぶ、このことについては全く頭から否定するものではないんです。ただ、やはり市立病院の指定管理者をお願いするときには、いろいろないきさつがあったのは御承知かと思います。その際にご説明があったのは、今言ったように、この協定書に書いているように、国及び県からの補助金の交付だけで運営していくんだというふうに説明してこられております。

それとともに、もう一つお尋ねいたしますけれど、今回、これは新たに「職員宿舍解体工事に伴う家屋事前調査業務委託料」というのが載っております。たしかこれは職員の宿舍を解体するための費用、またそれから、これを経て解体していくんだろーと思いたすけれど、この費用についても飯塚市が負担するものなのか。これは飯塚市が負担することになっているんでしょうか。まずそれを確認します。確認して、飯塚市が負担するならば、これは負担するべきものなのかどうか。これまでの病院運営に対して、こういう例があるのかどうかを重ねてお尋ねいたします。

○企業管理課長

まず1点目のご質問につきましては、解体費用等につきまして市のほうで予算計上をさせていただいております。それと、この解体の理由でございますけれども、今回解体を予定しております5号棟につきましては、老朽化により、使用状況が低下しておりますして、指定管理者より今後使用しないとの申入れがっております。令和5年5月1日付で返還をされるというような形で申出がっております。その中で、外壁等の落下の危険性も伴っていることから、市において解体を行うこととし、令和5年度にアスベスト調査、令和6年度の解体工事の設計委託業務委託を行い、今回、令和7年度で5号棟の解体を考えているものでございます。

○道祖委員

予算計上している理由は分かるんですよ、老朽化したから壊すんだって。ただ、壊すための経費については、飯塚市が負担するものなのかどうか、それをお尋ねしてるんですよ。今までそういう例があったのか。例えば、第10条に「管理経費の負担」というのがあります。全部読み込んでおりませんので私はぱっと目についたところだけ読みますけれど、第10条、「施設等の整備・修繕及び機器備品の購入において、甲はその費用に充てるために病院事業債等を起こしたものを以外は、乙の負担とする。」というふうになっていますよね。病院事業債等を起こしたもの。要は、どういうところからこの金が出てくるんですか。これも今、ご答弁いただいて、アスベスト調査とかそういうことについて、前年度予算計上してございましたと言われているんですけど、失念した私も悪うございますけれど、改めて気がついたときに、これが飯塚市のほうから出すべきものなのかどうか、見解を求めておるんです。

○企業管理者

予算の計上理由については、先ほど企業管理課長のほうからご説明差し上げましたが、負担すべきものかどうかということに関しましては、指定管理者のほう、地域医療振興協会のほうが、もうここを使用しないということで、今後市のほうで跡地を含めて活用をしていこうということで考えております。ただ、その計画については、まだ立案できておりませんが、今回の棟に関しましては、外壁が落下しておりますし、雨等の危険性もあるので、まず解体の費用を上げさせていただいたという経緯でございます。

○道祖委員

ここに「飯塚市立病院の指定管理者による管理に関する協定書」があって、この条項のどこに該当するからこういうお金を出していますということを示してくださいということが1点と、それと、これまでそういうことをしてきましたか、ということです。先ほど言いましたように管理施設等の整備・修繕及び云々という内容に該当するようなことで、飯塚市が、合計以外のお金を出したいきさつがありましたかということを確認しているんです。

○企業管理者

まず、この協定書のどこに該当するのかわかるというお尋ねですが、指定管理者のほうから市に、建物、底地含めて返還ということになれば、市の所有ということになりますので、この協定からは外れるという、私どもの考えの下で、市のほうの負担という予算を上げさせていただきました。過去においてそういった市が負担をしたという事例はないというふうに記憶しております。

○道祖委員

ですから、あなた方はこういうことなんですよ。今まで負担したことないということでしょう。病院がもう要らないから市に戻すということで、もうもらったんですか、登記は終わったんですか。もらったから市がこれを壊すんだということなんですか。では、もらったという協定書はどこにあるんですか。というのは、指定管理飯塚市立病院の指定管理者による管理に関する協定書の変更協定書というのは、二重に支払ったら駄目だから、わざわざ6条のこの協定変更書を書いて、ちゃんと印鑑を押して、協定書を結んでいるわけですよ。だからまだしも、私が失念していたからですよと言われれば、協定書の確認をしなかった私が悪いと思いますけれど、今言われた内容で説明があったときに、この管理に関する協定書のどこに該当して、宿舍を壊す費用をここに載せているのかということです。どの条例に従ってやっているんですということが言えればいいですよ。

○企業管理者

まずアスベスト調査なりの予算を上げた際に、この協定のどこに該当するのかわかり、どういった協議をして予算を計上しているのかの説明なり、ご理解を得ていないということに関しては、私どもの手続に不備があったというふうに感じております。この解体に関しましては、もっと、指定管理者側、市の関係部署、執行部あたりと十分に協議をした上で、お諮りすべきものであったというふうに今は思っております。

○道祖委員

だから、こういうことですね。決まりに基づいて、金を出しているのではないということですよ、今の答弁では。これを読む限り、私も要らなくなった施設は飯塚市に戻しますとかいうことをどこに書いているのかなと思って、書いていないような気がするんですけどね。施設等の使用は第8条に書いているけど、これも違うでしょう。施設等の使用。読んでいますか。施設等の使用について、ここにいろいろ使用について書いているんですよ。維持管理料についても書いてある。要らなくなった施設はどういうふうに対応しますということは書いてないと思うんですけど。ということは、決まりに基づいてお金を支出しなくてはいけないと思うんですけど、決まりがない中で、今度は予算計上していますけれども、昨年度の予算については、失念いたしましたけれども、改めて見ていたら、いかがなものかと思うんです。くどく言いますけれども、このお金というのはどこから出るお金なんですか。この解体に関する費用は、どこから出る金ですか。

○企業管理課長

一般会計から負担金として病院会計のほうに入れるような形になります。

○道祖委員

一般会計は、税金ですよ。それと今、あなた方が説明しているのは、令和11年度に、財政調整基金・減債基金は18億円まで低下しますと。厳しい財政状況にありますと。だから財

政の在り方について見直しますと。こういう答弁をずっとしてきているんですよ。その中で、訳も分からないで、理由がない。理由というのは、どこから出します、どういうことですかということを、危ないから、協定をこういう形で結びましたと言うならまだしも、譲って、協定書を結んで出しているならまだしも、壊します。壊した跡地については、再利用の計画については示されておられません。ただ危ないから更地にしますと、それだけの説明で、公金が支出できるものなんですか。副市長、できるんですか。

○久世副市長

今ご質問を聞いておりました。市立病院はハードの部分につきましては市の所有物であろうと思いますが、今30年間の条件で、地域医療振興協会に指定管理をお願いしております。質問委員が言われましたように、当然協定の中には、こういう場合にはどちらがリスクを担任するというのがうたわれていると思いますし、当然、それにのっとって事業というのは行われていくべきものだと思いますし、今申されましたように、そういったきちっとした理由づけがあれば、支出はできるものだと考えております。

○道祖委員

副市長の答弁です。リスク管理の中で、そういう協定が結ばれてないとするなら、どういう協議になって、誰の承認をもらって公金を支出しようとしているのか確認します。

○委員長

暫時休憩いたします。

休 憩 13:54

再 開 14:04

委員会を再開いたします。

○企業管理者

何に基づいて今回の解体を思い立ったかということですが、協定の中で言えば、一番最後、第27条の協議というところに基づいて、ということになります。ただ、この協議につきましても、指定管理者側から返還の申出があって、それをこちらで受けたところまでしか協議が進んでおりません。まだ、言われるように、ちょっと協議が不十分な点がありますので、改めて費用負担も含めて、指定管理者側と、この条項に基づいて協議をさせていただこうかと思います。協議が整った後、委員会でご理解いただくまでは、この予算については執行保留させてもらってはどうかというふうに、今、思っております。

○道祖委員

申入れがあって協議をしたんだろうと思うんですよ。その協議の内容はどういう形になっていますと、向こうの言い分はこうで、私どもの考えはどうですかということを委員会に諮っていないんですよ。だから、協定から外れているということですよ。だから改めて協議をして、予算は取りあえず、協議が改めて整って内容がはっきりしたら対応するということですね。それは、この予算を執行しないということだってあり得るわけですよ。昨年度のアスベスト調査費は戻してもらえますか。そこまですないと駄目でしょう、理屈からいうと。この協定書にのっとってやるんだから、もし、向こう側は自分のところでありますという話になったら、それも戻してもらわなくては行けない。管理業務の内容が4条に書いてあって、「甲は、病院の管理に関する業務を乙に行わせる。」と書いてあるんですよ。「病院の運営に関すること。」、「病院における医療の提供に関すること。」、「病院の施設及び設備の維持管理に関すること。」。維持管理というのは壊すまで入るのではないんですか。当然、維持管理で物を作って維持しています。維持して行って、それで、もう使わなくなったとか、使えなくなったとか言ったときに、維持管理というのは最終処分まで入るのではないんですか。普通、ものの考え方として私はそういうふうに理解しますけれど。

であるとするならば、私の取り方でいくと、これは管理業務の内容ですから、飯塚市が負担

するべきものではないというふうになりますよね。どう思いますか、企業管理者。いや、協議していろいろ話されるのはいいですよ。予算をこのままにしておいて、凍結するならするでも構わないですよ。執行しなきゃ一般会計のほうに戻せばいいだけのことですから、これは予算審議ですからね。予算審議だから、予算の在り方がどう在るべきか、ということを行っているだけです。だから、指摘があったから改めて協議するというご答弁をいただいていますから、それで執行停止しますと。そして、来年度、余剰金として一般会計のほうに戻していただければ、それで結構かなと思うんです。行政手続はよく分かりませんが、それで納得はできるんです。ただ、何でもかんでも金を出していいという話ではないですよという話ですよ。あくまでも協定書に基づいてやらなくちゃいけない。だから、あなた協議しに行ったときに、「危ないから壊したいんですよ」「分かりました、飯塚市が金を出してから壊しますよ」と、協議でそういうふうになりましたとかいう話ではないんじゃないかなと私は思います。

念を押しておきます。これはここに管理業務の内容は明記されているから、これに従えば出さなくていいんじゃないかなというふうに私は思うんです。くどく言いますけれど、あなた方の答弁では、交付金以外のお金を私が気がついて今回言っていますけど、昨年度気がつかなかったから出したけど、昨年度、この3月までの年度では出したけど、それ以前は出していないということだけは確認させてください。

○企業管理課長

はい、支出はしておりません。

○道祖委員

しつこく言いますが、こういうことについては、変えるなら変えるで、委員会や議会に、やはり理解を求めなきゃだと思えますよ。これは大きな懸案事項で、この協定書は結ばれたんです。過去のいきさつはそういういきさつがあるから、しつこく言っているんです。だから、そういう対応をお願いして、一旦質問は終わります。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○坂平委員

道祖委員と同じような内容ですけど、しつこいようですけど、先に、この小児科・休日夜間診療分、これは急患センターからこちらのほうに移譲したということでしょう。以前、急患センターのほうでこの事業をやっていたときの費用は、幾ら予算を見ていましたか。

○健幸保健課長

急患センターにつきましては、令和5年度までは内科と小児科で診療しております。令和3年度の決算が、8351万2千円。令和4年度決算が9355万9千円。令和5年度決算が9751万1千円となっております。小児科を飯塚市立病院に機能移転しましたのが、令和6年度、今年度でございまして、決算はまだ出ておりませんので、予算ベースでのご説明をさせていただきますと、令和6年度、急患センターの予算が、内科だけになりまして6625万8千円。小児科の飯塚市立病院に機能移転しました指定管理上の予算のうち、イニシャルコストを除いた予算が4116万5千円となっております。令和6年度の内科と小児科の合計としましては、1億742万3千円となります。決算と予算との比較になりますけれども、5年度決算と6年度予算では、10%増額しております。この原因としましては、スタッフがそれぞれの施設に必要なようになってくる。看護師であり、薬剤師であり、技師でありということがございますし、あと、急患センターでは診療時間が平日2時間、土日祝日で4時間でありましたところですけども、市立病院の小児科での休日・夜間診療につきましては、平日3時間、土日祝日で6時間30分の診療としておりまして、こういったところでも事業費が大きくなっているものでございます。

○坂平委員

今、数字だけざっと言われても、なかなかピンと来ませんが。小児科休日・夜間診療分、この部分で比較した場合に、どういう数字になりますか。

○健幸保健課長

比較でいきますと令和6年、急患センターの内科、小児科があったときと、内科だけになった場合で約3千万円の差がございます。この3千万円が小児科分というふうに言えるところではあるんですけども、市立病院に移った分でいきますと、今年度の予算でいきますと、約4900万円が上がっております。その差としましては、先ほど言いましたスタッフが20人いるということや、診療時間を拡大しているというものでございます。

○坂平委員

専門的な積算の仕方はちょっと私も分かりませんが、実施をしたときに、救急センターで実施した場合と、市立病院に移行した場合、これで差がどのくらい出ていますか。

○健幸保健課長

差として、3千万円程度多くなっております。

○坂平委員

救急センター、医師会、これがもう実際に、小児科休日・夜間診療分。これがもうできないということになったわけですか。

○健幸保健課長

飯塚病院が二次救急、いわゆる入院等必要な重症者に特化・集約していくということで、飯塚病院で受け入れていました軽症の方、要は、歩いてではないですけども、病院に自分で来て戻れる方、そういった方々を受け入れるのが、吉原町にございます急患センターでは、施設の大きさ、駐車場、そういったところで対応できないということで、飯塚市立病院で小児の休日・夜間診療をするようになったものでございます。

○坂平委員

しかし、バスセンターにある急患センター、あれはもう何年になりますか。

○健幸保健課長

吉原町にございます急患センターにつきましては、平成27年度に移転しておりまして、10年でございます。

○坂平委員

今まではそこで十分機能していたんでしょう。それが何で駐車場が狭いなど、いろんな今、説明をされましたよね、移行したということに対しての。その間、ずっと今までそこで十分機能していたんでしょう。だから、どういったことで、市立病院のほうに変わったのかなど。

○健幸保健課長

飯塚病院で受け入れておりました初期の救急の患者さんも受け入れなければならないということで、患者数が大幅に増加するところから、吉原町にございます急患センターでは能力的に不足するということで、市立病院のほうに移転をさせていただいたものでございます。

○委員長

結局、もう飯塚病院が今まで夜間とか休日か受け入れていたのが、もうそれは飯塚病院ができなくなったと。それで急患センターだけではもう狭いので、市立病院で引き受けると。

○坂平委員

先ほど道祖委員が聞かれていました分ですけど、解体の分。今までその範囲内まで、指定管理者で管理をしていただいていたわけでしょう。今回、解体で予算を上げている場所。これは、病院は一回も使用していないんですか。過去に使用はされたんですか。

○企業管理課長

過去に、今回の5号棟は利用をされておりました。

○坂平委員

利用して、もう必要ないから要りませんよと。単純な結論から言うとそういうことでしょう。先ほどから道祖委員は順を追って質問されていましたが、あなた方がもしそういうことをするのであれば、完全に底地から、全部今、市立病院に指定管理者として使用していいですよということをしているんですよ。それを新たに、完全にこの協定書の中に入れて、もうその分切り離して、市で、まだ建物が何個か残っていますよね。これをリノベーションして、別にまた売払いをするとか、そういったこともいろいろ考えられるんじゃないですか。今まで使った分で、老朽化して危険家屋になっていますということであるならば、今まで使ったところで費用負担は出させるのが当たり前でしょう。だから、その方向でしっかりと協議をしてください。それを要望しておきます。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○道祖委員

1点確認ですけれど、小児科の関係なんですけれど、これは協定書で結んでお金を出すようになりましたけれど、この医療については、国・県からの交付金は出てこないんですか。該当しないんですか。

○健幸保健課長

国・県からの交付金はございません。

○道祖委員

どういうふうなことになっているんですか。というのは、病院業務をするときに、今まで市立病院のほうには交付金が出てきているわけでしょう。それは市立病院で仕事をして、業務をしてもらうならば、その該当するものになるのではないんですか。そういうことは、確認したんですか。県にしろ、国にしろ。その結果、答えが、県・国からは交付金に該当しませんという回答をもらったんですか。

○健幸保健課長

交付金及び交付税措置ともに調査しまして、県のほうにも確認をさせていただきましたけれども、当該事業に関しては、対象にはならないということで回答されております。なお、財源としましては嘉麻市・桂川町との2市1町での事業となりますので、嘉麻市・桂川町からは市町村負担金を患者数割合にていただくようにはしております。

○道祖委員

地域医療の充実をという目的から言えば、広域で、というふうに言われたし、であるならば、国・県の方針に従ってやっているものであるから、対象になるのではないかと勝手に思うわけですが、もう全然全くなならないという回答なんですか。県に確認したらそう言ったんですね。国には確認したんですか。

○健幸保健課長

補助金等につきましては、県にしか確認をしておりません。交付税措置につきましては、県を通じて国に確認を取らせていただきましたけれども、対象外となっております。

○委員長

暫時休憩いたします。

休 憩 14：26

再 開 14：28

委員会を再開いたします。

○健幸保健課長

説明不足で申し訳ございません。交付税措置につきましては、小児救急に関する項目というのがございます。その項目の中で該当しないかということで問合せをさせていただいたんですけれども、二次救急を行っている病院が、一次救急まで対応する場合には、小児救急に関し

ての交付税措置があるけれども、飯塚市立病院に関しましては、小児の一次救急だけになりますので、小児救急の交付税措置の対象にはならないということでございました。

○道祖委員

くどいかも知れませんが、もう一度国のほうに再確認してもらえないですか。皆さん一生懸命頑張っておられると思いますけど。何で一生懸命言っているかという、交付税の在り方が若干変わってきているような気もするんですね。せんだって一般質問したように、国土交通省の交付税の在り方も、割増しがあるとかそういうふうに変ってきていますから、特に小児医療に関しては、少子化の時代になって、子育てに対してはいろいろな取組が行われております。そのときに、今おっしゃった内容だけで、ずっと厚生労働省の管轄かと思えますけども、そういうことなのかどうか、若干変わってきているのではないかなと思います。もう一度、県のどこに尋ねて、国のどこに尋ねたかを確認していただいて、その結果をいただけないですか。少しでも、やはりお金をいただけるなら国からいただいたほうが、飯塚市の財政のためにはなと思うので、持てる力を持って、いっぱい頑張っていたきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○健幸保健課長

改めて相談をさせていただきます。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○瀬戸委員

先ほどの「市立病院の指定管理者による管理に関する協定書の変更協定書」に第6条の2を付け加えるということになっていますので、現契約にこの第6条の2が入ってくると思うんですけど、「飯塚医療圏において特に必要とする医療機能について、甲の求めにより乙がその体制を確保するときは、甲は、乙に指定管理料を支払うことができるものとし、その内容及び支払額は、別途年度協定に定める。」とありますが、本来の飯塚市の病院条例の中に、これはちょうど休日・夜間診療分になるんでしょうけど、第3条に「病院の外来診療に係る休診日は、次のとおりとする。ただし、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、企業管理者の承認を得て、これを変更し、又は臨時に休診することができる。」という条項があります。これで言うと、この文章は、この協定書だけではなくて、この条例にも付け加えるべきではないのでしょうか。

○委員長

暫時休憩いたします。

休 憩 14:33

再 開 14:45

委員会を再開いたします。

○企業管理課長

ただいま質問委員からご指摘いただきました飯塚市病院条例の件につきましても、内容等につきまして適正かどうか検討させていただきたいと思います。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第16号 令和7年度 飯塚市立病院事業会計予算」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第25号 飯塚市宿泊税交付金基金条例」を議題といたします。執行部の補足説明及びさきの本会議において審査要望のあった件の答弁を求めます。

○商工観光課長

条例議案の補足説明の前に本日の提出資料について説明させていただきます。

この資料につきましては、観光庁が示しております「観光地域づくり法人」に関する全体像となっております。観光地域づくり法人につきましては、地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた、観光地域づくりの司令塔となる官民が協力して設立する法人となっております。その法人の一般的な役割としましては、ターゲティング等の戦略策定や観光コンテンツの造成、受入環境を整備することにより、地方誘客・旅行消費拡大を図り、観光による受益が広く地域に行き渡り、地域全体を活性化することが観光地域づくり法人が担う役割となっております。

続きまして、議案第25号の補足説明をさせていただきます。議案書の67ページをお願いいたします。本市では、福岡県から交付される福岡県宿泊税交付金を活用し、令和2年以降、観光振興を図る事業を毎年行っております。また、この宿泊税交付金は翌年度以降にまとまった財政需要が発生する場合に、目的や内容を定め基金として積み立てて活用することも可能な交付金でもあります。このため、飯塚市の観光振興を図る事業の財源に充てるため、飯塚市宿泊税交付金基金を今回設置するものでございます。

続きまして、昨日の議案第25号で審査要望のありました、そもそも基金とは、また、経過、目的、さらにDMOの設立の準備についての質問に対して答弁させていただきます。

福岡県宿泊税交付金交付要綱第3条において、そもそも基金積立年度の翌々年度末までに実施する事業に限りますが、新たに基金を造成することが認められております。このため第2次飯塚市観光振興基本計画において、飯塚版DMO設立の検討を掲げ、令和6年度において、飯塚観光協会や商工会議所など、関係機関と勉強会を重ねております。福岡県宿泊税交付金交付要綱に基づき、飯塚市の観光振興を図る事業の財源に充てることを目的に飯塚市宿泊税交付金基金を設置するものでございます。

引き続き、令和7年度におきまして、設立準備にかかる会議体を組織しまして、その方向性や観光戦略について検討し、令和8年度設立に向けた準備を進めてまいります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

○瀬戸委員

今、DMOに関して、商工会とか観光協会と勉強会をしているということですが、ここに書いてあるいろいろな組織が絡んでくるような形になっていますけど、今、具体的にどのような話をしてあるんですか。

○商工観光課長

まだ勉強会でございますので、そもそもDMOとは、から始めまして、先進事例や必要性について、専門家を招聘しまして勉強会を進めております。

○瀬戸委員

今から何度かそういう勉強をされて、設立は大体令和7年度のいつ頃ですか。

○商工観光課長

実際の観光地域づくり法人の説明につきましては、令和8年度中を考えております。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

○城丸委員

私は宿泊税交付金についてちょっとお聞きしたいんですけど、宿泊税交付金の説明と、それ

と飯塚市に交付金が来るわけですけど、その計算式みたいなものがありましたか。

○商工観光課長

宿泊税交付金につきましては、福岡県では宿泊税を活用した財政的支援を行うことで、市町村がそれぞれの地域の現状と課題を踏まえ、創意工夫を凝らした新たな観光振興施策を実施し、県全体の観光の底上げを図ることを目的として、市町村に宿泊税交付金を交付しております。

また、その算定方法につきましては、福岡県内に宿泊する際の福岡県が徴収する宿泊税を原資といたしまして、福岡県が算出した市町村ごとの宿泊者数や、各市町村への旅行者数の調査データを基に、毎年内示されております。

○城丸委員

宿泊税を納めた数でというような、それに比例してとか、何かそういうあれですかね。人口割とかそんなことではないんですね。分かりました。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第25号 飯塚市宿泊税交付金基金条例」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第33号 飯塚市自転車駐車場条例の一部を改正する条例」を議題といたします。執行部の補足説明を求めます。

○建設政策課長

「議案第33号 飯塚市自転車駐車場条例の一部を改正する条例」につきまして、補足説明いたします。

議案書の96ページをお願いいたします。今回の改正は、吉原町自転車駐車場の利用時間を終日利用とするため、関係規定を整備するものでございます。改正点につきまして、新旧対照表にてご説明いたします。

議案書の97ページをお願いいたします。吉原町自転車駐車場における現行、午前6時から午後10時までとしている利用時間を、他の自転車駐車場と同様に終日に改正するものでございます。

以上、簡単ではございますが説明を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

(質疑なし)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第33号 飯塚市自転車駐車場条例の一部を改正する条例」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第34号 飯塚市中小企業融資制度に係る中小企業者等の事業の再生のための措置に関する条例の一部を改正する条例」を議題といたします。執行部の補足説明を求めます。

○商工観光課長

議案第34号の補足説明をさせていただきます。

議案書の98ページをお願いいたします。本議案につきましては、産業競争力強化法の改正により、条項ずれが生じたため、本市の飯塚市中小企業融資制度に係る中小企業者等の事業の再生のための措置に関する条例の規定を整備するものでございます。

詳細につきましては新旧対照表をお願いいたします。改正前第3条第2項第5号、産業競争力強化法第2条第21項を、改正後につきましては第3条第2項第5号、産業競争力強化法第2条第22項に改めるものでございます。

以上、簡単ですが補足説明を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありますか。

(質疑なし)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありますか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第34号 飯塚市中小企業融資制度に係る中小企業者等の事業の再生のための措置に関する条例の一部を改正する条例」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第35号 飯塚市水道事業給水条例の一部を改正する条例」を議題といたします。執行部の補足説明を求めます。

○上水道課長

「議案第35号 飯塚市水道事業給水条例の一部を改正する条例」につきまして、補足説明いたします。

議案書の100ページをお願いいたします。飯塚市水道事業給水条例の一部改正につきましては、生活衛生等関係行政の機能強化のための関係法律の整備に関する法律の公布に伴い、水道法施行令の一部が改正され、令和7年4月1日から施行されることから、第40条の3、第40条の4について改正を行うものでございます。

101ページから104ページの新旧対照表の改正内容につきましては、資格要件が定められている、布設工事監督者及び水道技術管理者の確保が困難となっていることから、第40条の3、第40条の4について、学歴及び学科要件における土木工学科以外の課程の追加や、技術上の実務経験について、水道以外の下水道等についても、含めるなどの資格要件の見直しを行うものです。ただし、実務経験につきましては、少なくとも半分は水道に関する実務経験を有することとしております。なお、施行日は令和7年4月1日としております。

以上、簡単ではございますが、議案第35号の説明を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありますか。

(質疑なし)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありますか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第35号 飯塚市水道事業給水条例の一部を改正する条例」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第37号 契約の締結（相田公営住宅1棟目建設工事）」を議題といたします。執行部の補足説明を求めます。

○契約課長

「議案第37号 契約の締結（相田公営住宅1棟目建設工事）」につきまして、補足説明をいたします。

議案第37号の工事請負契約の締結につきましては、地方自治法第96条第1項第5号及び飯塚市議会の議決に付すべき契約に関する条例第2条の規定に基づき、提出するものであります。

議案書108ページをお願いいたします。本件につきましては、契約金額12億5300万3400円で、九特・神埼特定建設工事共同企業体、代表者、九特興業株式会社、代表取締役、新川猛文と契約を締結するものであります。

工期につきましては、本契約として認められた日から令和9年2月26日までとしております。

この入札につきましては、価格及びその他の条件が最も有利なものをもって申込みをした者を落札者とする総合評価落札方式により落札者を決定いたしております。

入札執行状況につきましては、条件付き一般競争入札実施要領及び運用基準並びに総合評価競争入札試行実施要領に基づき、業者選考委員会において入札参加の条件等を決定し、令和6年11月1日に入札公告を行い、12月17日に入札を執行いたしました。

この際、評価値が最も高い業者の入札金額は、低入札調査基準価格未満であったため、落札者決定を一旦保留し、低入札価格調査委員会での調査及び審議を行い、12月24日に入札を再開し、落札者を決定いたしております。

入札の結果でございますが、議案書資料の109ページの入札概要をお願いいたします。本件につきましては、2つの共同企業体から入札参加申請がありましたが、入札の結果、予定価格13億8270万円に対しまして、落札額12億5300万3400円、落札率90.62%で九特・神埼特定建設工事共同企業体が落札をいたしております。

以上、簡単でございますが、補足説明を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありますか。

○深町委員

相田公営住宅ということで、長年、これは第1期工事ということで、全体の概要をちょっと説明お願いします。4期工事までの流れ。

○住宅課長補佐

相田公営住宅の建て替え事業につきましては、令和元年度に基本計画を策定しまして、現在の戸数250戸から4棟184戸とし、整備するものとして事業計画を立てております。

○深町委員

昨日もこの話があったので、私もその辺はいいと思うんですけど。追加工事というのがよくこの件で発生しますので、その辺を、私、ちょっとお尋ねしたいんですけど、見積り外、見積り落ちとか、そういうので外れた場合、追加工事というのが今回も発生するようなおそれとか、そういうのはありますか。追加工事とか見積り落ちとか、その辺に対する今までの実績からして、その辺はどんなふうにお考えでしょうか。

○住宅課長補佐

今後の、現状行っております設計以上のものということで、事業課としましては、調査過程にて判明いたしました懸案事項等は、設計に反映させ、整理を行っておりますが、事業を進める中で不測の事態に対峙した際には、原因等調査を行いながら、策を講じれば、最少の経費をもって課題が解決できるのかを、関係部署とともに検証・実行しながら、安心・安全な住宅の提供に向けて事業を進めていくこととしております。

○深町委員

この場所が、昨日もちょっと、話に上っていたと思いますけど、下が空洞ということがあ

りまして、その辺ももう承知の上で、この見積書もできていると思うんですね。施工についての調査は十分に行われていることと思うんですけど、その辺も加味して基礎が緩やかだったと。やり方もいろいろあるでしょうけど、基礎のくいの場所が違うとか、まだ多く打たないかとか、いろんなことが発生する。そういうのも、かなり綿密に今回は調べてあると思うんですけど、その辺はいかがでしょうかね。基礎工事の部分で。

○建築課長

不安材料ということではないんですが、今回建物の下部に地盤調査を行った結果、表層を盛土、その下層を砂岩及び泥岩が分布している地盤であり、一般的に、ほかの地層にないものとしては、地下約20メートルから30メートル部分に、古洞の存在が、調査としては上がっております。そのためこの古洞の対策として、基礎杭に関してはオールケーシング工法の場合打ち杭を採用し、古洞の下層にある支持地盤までに定着させる工法としております。また、古洞部分にコンクリート等の流出を防ぐために、古洞が想定される位置にネット状の流出防止剤を使用し、また今回、くいを22か所施工する予定でございますが、その予定箇所全てに、ボーリング調査を行って、地盤の状況を確認した上で、今回設計のほうを組み上げております。

○深町委員

今回、本体工事と、それからプロパンガスボンベ置場、それと自転車置場、この3つを合わせたの金額だと思うんですけど、それでよろしいでしょうか。

○建築課長

委員がおっしゃってあったとおり、今回市営住宅の本体棟、鉄筋コンクリート造の6階建て、1棟48戸及び自転車置場、軽量鉄骨造が1棟、また、プロパンガスボンベ庫等を整備いたします。また建物周辺の若干の外構も整備する工事までが今回の工事となっております。

○深町委員

今回1棟48戸分が令和9年までに完了して、第2期、2棟、3棟、4棟とあるんですけど、最後まで行くには、どのくらいの時間と、どのくらいの経費がかかるのか、予測がつかましたらお願いしたい。

○住宅課長補佐

ただいまの計画では、建て替えにより4棟、ただいま1棟目を建設する予定としておりまして、計画の目途としては、令和20年度を目途に4棟までを整備する予定としております。

また、先ほど申しましたように、令和元年度に策定しました基本計画における概算の見込額としましては、55億円を見込んでおります。

○深町委員

令和20年度までということで、計画を持って、令和元年から20年間かかって4棟造ることですけど、もう進捗具合が第1棟目ということで、今さらなのですけど、住宅1棟建てたときのその後のランニングコスト、1年間のそういう費用というのは、どのくらいを見込んであるのでしょうか。それをお答え願えますか。

○委員長

今回の入札の案件からちょっと外れておりますので、別の質問をしてもらっていいですか。

○深町委員

ちょっと気になるんですけども、20年の間に住宅事情もいろいろ変わってきている。もうこれはこのままいくと、令和20年度までどんどんやっていくということですけど、何でこんなことを言うのかというと、見直しも今後必要になってくるのではないかなと思うんですね。空き家がいっぱいできています。そして人口が減っている。その中で、経費も節減しなければいけない中で、果たして市営住宅を造って、これを管理費用と、それから、入居者に低所得者の方が入居していただくということで、その辺の費用対効果というのは、ないと思いますけど、それと今後の予算について、これをどんどん進めていってもいいのかということのもちょっと疑問

に思いましたので、この辺の質問をさせていただくんですけど。

質問を変えますけど、今の入居者の方は、今建てているところに今度入られるという予定なんですか。

○住宅課長補佐

建て替えによります住み替えにつきましては、現在、1回目のアンケートを取っておりますが、ほとんどの方が住み替えを希望しておるところで整理をしております。

○深町委員

それは何名ぐらいで、何世帯ぐらいの方が入居を希望してあるんでしょうか。

○住宅課長補佐

当時アンケートを取りましたときは152世帯の方ということでアンケートを取っておりますが、現状、令和6年度1月現在では109世帯の方が移る予定というところで確認しております。

○深町委員

ということは、今回4棟できますけど、ほぼ埋まる。建て替えをすると、金額が多少上がるでしょうけども、ほぼその方たちで埋まるという考え方でいいんでしょうか。

○住宅課長補佐

当初申しましたように、4棟で184戸を整備する予定としておりますが、この差の部分につきましては、公募を停止しました団地から、入居者のうち希望される方を、新相田住宅の整備するところへ、案内する予定としておりますので、政策移転を含めて管理費等の抑制に努めるために、その分としてストックする予定としております。

○委員長

議案は契約の締結でございますので、それに沿ってください。

○深町委員

投資効果なんていうのは、今回ちょっと問題外でしょうからあれですけど、契約に当たって、プロの方が積算されて、ちゃんとした見積りが出ているでしょうから、追加工事費用というのが発生しないように、十分気をつけて、この工事を見守っていきたいというふうに思います。調査も十分されたことだと思いますので、決してまた追加が出ないように、ちゃんとお願ひしておいて、質問を終わります。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第37号 契約の締結(相田公営住宅1棟目建設工事)」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第40号 土地の処分(栗尾工業団地北側)」を議題といたします。執行部の補足説明を求めます。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

「議案第40号 土地の処分(栗尾工業団地北側)」について、補足説明をいたします。

議案書の122ページをお願いいたします。契約の相手方であり、株式会社岡崎製作所は、温度センサー及び工業用電気ヒーターの製造・販売等を行う製造業の企業でございます。同社福岡工場の移転・事業拡大による新設に伴う用地に活用する目的として、栗尾工業団地の一部、北側の1万6079.13平方メートル、約4872坪の当該地の取得を希望されたと

ころでございます。

当室といたしましては、工場建設に伴う固定資産税収の増加、市民の雇用の場の確保、税収の維持、地場産業の振興といった観点から、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号により当該地を株式会社岡崎製作所に売却したいと考えております。

処分価格は3億400万円でございます。飯塚市が売却する当該企業への処分単価につきましては、のり面を含めた全体面積で割り戻しますと、1平方メートル当たり1万8906円、1坪当たり6万2389円となります。

法人の履歴事項全部証明書によりますと、株式会社岡崎製作所の本社は神戸市中央区御幸通三丁目1番3号、代表取締役は岡崎一英氏でございます。従業員数は令和5年10月1日現在510名で、福岡工場では80名の従業員が雇用されております。

今回、福岡工場の移転・事業拡大に伴う工場新設となっており、新規雇用につきましては、工場稼働予定の令和8年3月までに10人の雇用を予定しており、90名となる予定です。なお、令和6年1月に覚書を締結し、地域住民の生活環境の保全や工場建設時の地元企業との連携、地元雇用などについて、両者で合意を行っております。

123ページに処分する財産の明細表を、124ページに位置図を添付しております。

次に、本年1月29日開会の閉会中の経済建設委員会において、本日の委員会において、資料提出の要求がございましたので、追加資料を提出しております。ご確認をお願いいたします。

資料の上段になりますが、①から④までの番号を付記しております。処分する財産につきましては、赤色の太枠で囲った①から③までとなっており、そのうち黄色で着色した①が平地部分、約1万2千平方メートル、3636坪で、赤色で着色した②と③がのり面部分、約4千平方メートル、1212坪となっております。当該地につきましては、黄色と赤色部分、のり面まで含めまして処分するものでございます。

なお、緑色で着色した④ののり面、約725平方メートル、219坪につきましては、本市の所有地ではございますが、誘致企業との協議により、緑地化及びその後の維持管理について、行っていただくことになっております。

また、処分単価につきましては、不動産鑑定評価を行い、市の公有財産調整等委員会に提案し、承認をいただき、その単価以上で誘致企業と合意していることを申し添えます。

以上、議案第40号の補足説明を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

○瀬戸委員

この黄色で囲んである今の緑の部分を説明されましたね。2区画空いていますよね。これは調整池か何かですか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

この白い部分、中央から右側になりますが、調整池となっております。左側につきましては、その調整池を維持管理するために入るための土地となっております。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第40号 土地の処分(栗尾工業団地北側)」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第41号 土地の処分（平恒地区工場適地）」を議題といたします。執行部の補足説明を求めます。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

「議案第41号 土地の処分（平恒地区工場適地）」について補足説明をいたします。

議案書の125ページをお願いいたします。契約の相手方であります松岡運送有限会社は、一般区域貨物自動車運送事業及び貨物保管業等を行う物流業の企業で、当該地の隣接地に平成21年に誘致企業として進出された企業でございます。

当時、当該地につきましても取得を希望されておりましたが、一部、都市計画道路予定地であったため、売却できずに、平成24年度より賃貸借契約を締結し、現在まで賃貸している土地でございます。このたび、令和5年9月に都市計画道路「南尾・平恒工業団地線」の廃止が決定されたことにより、当該地1万7268.13平方メートル、約5232坪を取得することで、隣接所有地と一体的な業務の効率化や、安定した事業継続を図ることができることから、取得を希望されたところでございます。

当室といたしましては、税収の増加、地場産業の振興といった観点から、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号により当該地を松岡運送有限会社に売却したいと考えております。処分価格は1億1262万5千円でございます。飯塚市が売却する当該企業への処分単価につきましても、のり面を含めた全体面積で割り戻しますと、1平方メートル当たり6522円、1坪当たり2万1522円となります。

法人の履歴事項全部証明書によりますと、松岡運送有限会社の本社は、嘉穂郡桂川町大字吉隈字ヲベ田13番地134、代表取締役は松岡竜二氏でございます。従業員数は令和7年1月4日現在、12名となっております。

126ページに処分する財産の明細表を、127ページに位置図を添付しております。

次に、本日追加資料を提出しております。ご確認をお願いいたします。資料の上段になりますが、処分する財産につきましても、赤色の太枠で囲った箇所、1万7268.13平方メートル、5232坪となっており、そのうち、黄色で着色した箇所が、平地部分1万1116.05平方メートル、3368坪で、赤色で着色した箇所が、のり面部分6152.08平方メートル、1864坪となっており、のり面まで含めまして処分するものです。また、処分単価につきましても、不動産鑑定評価を行い、市の公有財産調整等委員会に提案し、承認をいただき、その単価以上で誘致企業と合意していることを申し添えます。

以上、「議案第41号」の補足説明を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

○坂平委員

ちょっとお尋ねします。ここは、財産活用課じゃなくて企業誘致として、管理していたんですか。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

企業誘致用地として、企業誘致担当課が所管していた土地でございます。

○坂平委員

これはあくまでも公募じゃなくて企業誘致として売却をしたということで間違いないですね。

○経済政策推進室企業誘致担当主幹

委員がおっしゃるとおり、間違いございません。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第41号 土地の処分(平恒地区工場適地)」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第43号 市道路線の認定」を議題といたします。執行部の補足説明を求めます。

○土木管理課長

「議案第43号 市道路線の認定」について、補足説明をさせていただきます。

議案書131ページをお願いいたします。市道路線の認定につきましては、道路法第8条第1項の規定に基づき、市道路線を認定するに当たり、同条第2項の規定に基づき、議会の議決を求めるため提出するものでございます。

今回認定する路線は4路線、336.1メートルでございます。市道認定路線明細に記載しております一連番号1番、3番の路線は、寄附採納に伴う路線認定を行うものです。路線箇所は132ページ、134ページに記載しております。

続きまして、市道認定路線明細に記載しております一連番号2番の路線は栗生工業団地造成事業に伴う路線認定を行うものです。路線箇所は133ページに記載しております。

続きまして、市道認定路線明細に記載しております一連番号4番の路線は、開発帰属に伴う路線認定を行うものです。路線箇所は135ページに記載しております。

以上、簡単ではございますが、補足説明を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありますか。

(質疑なし)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありますか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第43号 市道路線の認定」については、原案のとおり可決することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、「議案第45号 専決処分の承認(令和6年度 飯塚市小型自動車競走事業特別会計補正予算(第4号))」を議題といたします。執行部の補足説明を求めます。

○公営競技事業所副所長

「議案第45号」専決処分の承認についてご説明いたします。「令和6年度 小型自動車競走事業特別会計補正予算(第4号)」につきましては、地方自治法第179条第1項の規定に基づき専決処分をいたしましたので、報告を行い、承認を求めるものでございます。

今回の補正につきましては、勝車投票券発売収入の増加に伴い、委託料等の経費を補正するもので、歳入歳出予算の総額に26億5990万4千円を追加して、286億4734万8千円とするものでございます。

資料の4ページ、補正予算概要書のほうをお願いします。まず、歳入でございますが、収入状況を勘案いたしまして、勝車投票券発売収入を26億5990万4千円追加しております。

次に、歳出でございますが、勝車投票券発売収入の増加に伴いまして、事業費の中の電話投票事務委託料、JKA交付金、勝車投票券払戻金、包括的民間委託料を追加しております。予備費は3億2970万円となり、これが令和6年度の単年度黒字の見込額となります。

以上、報告を終わります。

○委員長

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

(質疑なし)

質疑を終結いたします。討論を許します。討論はありませんか。

(討論なし)

討論を終結いたします。採決いたします。「議案第45号 専決処分の承認(令和6年度飯塚市小型自動車競走事業特別会計補正予算(第4号))」については、承認することに、ご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、本案は承認すべきものと決定いたしました。

お諮りいたします。案件に記載のとおり執行部から3件について報告したい旨の申出がっております。報告を受けることにご異議ありませんか。

(異議なし)

ご異議なしと認めます。よって、報告を受けることに決定いたしました。

「メインスタンドリニューアルオープンについて」、報告を求めます。

○公営競技事業所副所長

「メインスタンドリニューアルオープンについて」、ご報告いたします。

資料の「2025年4・5・6月オートレース日程表」をお願いいたします。令和4年3月に契約を締結しました「メインスタンド整備工事」が、令和7年6月中旬に竣工予定となっております。現在、最終的な附帯設備の工事等を行っておりますが、その進捗も順調に経過しております。予定どおりに工事完了を迎えることとなります。

このため、日程表にありますように、令和7年6月21日、土曜日から、新たなスタンドにお客様をお迎えして、レースを開催することとなりました。開催初日である6月21日には落成式を執り行いまして、新たなスタンドをお披露目することとなります。

施設の概要につきましては、次のページの資料「飯塚オートレース場メインスタンド施設概要」にお示ししております。1階は無料で利用できるエリアとなり、走路側に屋外無料観覧席を300席配置しております。2階は有料席で、テーブル席、グループ席など229席を配置しております。3階は競走審判室を含む、関係者エリアとなっております、オートレース事業に必要不可欠な施設となっております。

今後も、お客様に魅力ある快適な環境で迫力あるオートレースを提供するとともに、職員一丸となってオートレース事業の活性化に取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。

なお、機器等の設置が完了いたします5月上旬頃に、一度経済建設委員の皆様には、事前に見学をしていただきたいと思いますと考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上、簡単ではございますが、報告を終わります。

○委員長

報告が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

(質疑なし)

質疑を終結いたします。本件は報告事項でありますので、ご了承願います。

次に、「市道上における車両損傷事故について」、報告を求めます。

○土木管理課長

「市道上における車両損傷事故について」、ご報告させていただきます。

本件事故は、令和7年2月14日、金曜日、午前6時40分頃、飯塚市潤野地内におきまして、相手方が市道太郎丸・相田線を北方面から南方面に走行中、道路上にできたポットホールを通過した際、車両の左側の前後のタイヤホイールを損傷させたものです。

なお、本件事故における損害賠償につきましては、現在相手方と協議を行っているところで

す。

道路の安全点検につきましては日頃より、広報等で市民の方からの情報提供依頼、職員への呼びかけ及び道路パトロールなどにより、危険な箇所を発見した際には迅速に対応しておりますが、これまで以上に安全管理に対する一層の注意喚起を行い、再発防止に努めてまいります。

以上、簡単ではございますが、報告を終わります。

○委員長

報告が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありませんか。

○瀬戸委員

今、広報紙で市民の方にも呼びかけて、そしてご連絡していただいていると。あとは安全パトロールで職員さんが行ってから、ポットホールは直したんですね。これは広報紙だけじゃなくて、今、みんな携帯を持ってSNSを使われますけど、そういうものは広報誌などに入れていないんですか。こういうもので知らせてもらうような、例えば、ラインならラインの友達をつくっておけば、そこに市民の方から知らせが来るような方法も取ったらどうですか。今、みんな若い人たちは持っていますので、こういうものをもっと利用していったらどうかなと思うんですけど。その辺りどうでしょう。

○土木管理課長

現在、ライン及びメールで、市のライン、メールのほうに、情報が来ています。

○瀬戸委員

それはいつ頃から始められたんですか。

○土木管理課長

ちょっと調査してからまた報告いたします。すみません。

○瀬戸委員

始められているんですね。僕たちも仕様を全部見たことがないから気づかなかったんですけど、いろんなところにいわゆる広報紙が貼ってあったりとか、よくこのトイレの中にも何か貼ってありますよね、DV予防啓発とか、いろいろ。そういうものはあちこち貼ってありますか。

○土木管理課長

貼り紙の公告はしておりません。

○瀬戸委員

してあるんだったら、もっと有効に、皆さんがもう少し活用しやすいように、目につくように、周知しやすいように、ちょっと考えてみて、努力していただきたいなと思います。よろしくお願いします。

○委員長

ほかに質疑はありませんか。

(な し)

質疑を終結いたします。本件は報告事項でありますので、ご了承願います。

次に、「工事請負変更契約について」、報告を求めます。

○上水道課長

「工事請負変更契約について」、ご報告いたします。

資料「工事請負変更契約報告書」をお願いいたします。令和6年11月13日の経済建設委員会におきまして、契約締結のご報告をさせていただいておりました「幸袋・中地区配水管布設替工事」につきまして、現契約工期令和6年9月20日から令和7年2月28日の契約工期を変更し、令和7年3月31日までとしたものでございます。

次のページの平面図をお願いいたします。変更契約の主な理由といたしましては、赤丸で示した箇所において、掘削の結果、水路下越し部分において、水路の底版コンクリート厚さが1メートル以上あることが判明し、コンクリート穿孔工法への変更の検討及び機器の調達等に

時間を要したことによるものでございます。

次のページをお願いいたします。続きまして、令和6年11月13日の経済建設委員会におきまして、契約締結のご報告をさせていただいておりました「津原導水管布設替（2工区）工事」につきまして、現契約金額7406万6300円から77万円を増額いたしまして、変更契約金額7483万6300円としたものでございます。

次のページの平面図をお願いいたします。変更契約の主な理由といたしましては、赤丸で示した3か所において、掘削の結果、当初暗渠の下越にて計画をしておりましたが、地盤状況が悪く、崩落の危険性があるため、水路上越しに変更したことによる材料費及び防護コンクリート等の付帯工の増工。また、青丸で示した箇所において、不要な地下埋設物、U型側溝内径600ミリメートル掛ける600ミリメートルが床堀内に出てきたことにより、その撤去にかかる土工、付帯工の増工、その他数量の異動は精査によるものであります。

以上、簡単ではございますが、変更契約2件の報告を終わります。

○委員長

報告が終わりましたので、質疑を許します。質疑はありますか。

（ 質疑なし ）

質疑を終結いたします。本件は報告事項でありますので、ご了承願います。

閉会を前に正副委員長代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。本日をもって、この任期中の当委員会は最後となります。この間、皆さまのご協力をいただきまして、委員会運営を円滑にすすめることができましたことを、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

これをもちまして、経済建設委員会を閉会いたします。お疲れ様でした。